

滋賀発！ “地域プロデューサー” への道

～地域が動く！地域を動かす！～

# 風土力

座と市づくりプロジェクト「権座水郷コンサート」と

ほんがら松明復活映像化プロジェクト

ひょうたんからKOMAMA

「みんなの居場所」を滋賀に100ヶ所つくろう！

絆・世代&地域

お米づくりと共食による食育プログラム

「おむすび少年団」と「五感食育講座」

逢味おむすび隊  
おうみ

中山間地域の再生と自立「EVE気みちひらきまつり」

曲谷LOHAS倶楽部

おうみ未来塾第7期 総勢26名

活動成果報告書 2005.6～2007.3

～地域が動く！地域を動かす！～

# 風土力

## 新たな旅立ちに向けて

地域プロデューサーってよく分からないけど、「何かおもしろそうだな。」ということで飛び込んだ未来塾。自ら地域課題を解決する仕事を引き受けようという一風変わった人の集まりでした。この熱意とパワーが結集すれば、きっと世の中変わっていくと思います。

「プロデューサーとは、ディレクターとは何か」などという抽象的な議論をしていた時期もありましたが、7期生の共通目標として「現場に入る」ことにしたことは間違いでなかったと思います。

現場から見渡し、地域の人的・物的資源をつなぎ、足りない資源を調達し、人と人の繋がりを広げていくことによって、それぞれのフィールドの課題解決につなげていくのが、まさに地域プロデューサーの役割だということを理解できたことが2年間の成果だと思います。

卒塾は、新たな旅立ちです。それぞれの地域において未来塾の2年間で身に付けたことを活かしていきたいと考えています。

本報告書は、未来塾7期生の2年間の活動経過をまとめたもので、これから未来塾に参加される方をはじめ、世のため人のために何かしたいという気持ちを持っておられる「あなた」にとって、何かのヒントになれば幸いです。

おうみ未来塾7期生一同



## 目次 contents

新たな旅立ちに向けて .....	1
<b>第一部 わたしにとってのおうみ未来塾</b> .....	<b>3</b>
7期生26名の個人のページです。	
<b>第二部 2年間のあゆみ</b> .....	<b>31</b>
塾活動2年間の概要を時系列で追ってみました。	
<b>第三部 グループ研究活動の記録と成果</b> .....	<b>37</b>
「地域プロデューサー」をめざし、「たすけあい、みつけあう、フィールドに入り現場で学ぶ」を合い言葉に、取り組んできたグループ研究活動の成果です。	
中山間地域の自立と再生	
<b>曲谷LOHAS倶楽部</b> .....	<b>39</b>
お米づくりと共食による食育プログラム 「おむすび少年団」と「五感食育講座」	
<b>逢味おむすび隊</b> .....	<b>47</b>
座と市づくりプロジェクト「権座水郷コンサート」と ほんがら松明復活映像化プロジェクト	
<b>ひょうたんからK O - M A</b> .....	<b>55</b>
「みんなの居場所」を滋賀に100ヶ所つくろう！	
<b>絆：世代&amp;地域</b> .....	<b>63</b>
<b>第四部 7期生に向けて</b> .....	<b>71</b>
2年間お世話になった、塾長・運営委員の皆さんからのメッセージです。	

## 第一部

# わたしにとっての おうみ未来塾

7期生26名の2年間の“おもい”の個人ページです。  
五十音順に掲載しています。読んでください。

氏名	いちおかあきこ 市岡朗子
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	大津市



## 2年間をふりかえって

『おうみ未来塾にはどんなことが待っているのかな？』とワクワクしながら入塾しました。ところが直後に妊娠発覚し、活動が制約されました。それでも期待以上にとても実りの多いものでした。普段の生活ではなかなか会えない、行動力あるパワフルな人たちと出会い、多くの刺激を受けました。磨かれた珠のように、多くの困難をこなしながら着実に『その人らしさ』を発揮していた人ばかりでした。中でも新潟の『地域の茶の間』を実践している河田さんには頭が下がります。記事等でその人の雰囲気はつかめていましたが、実際に会ってみるとずっと、魅力あふれる人でした。『「老いも若きも定職のある人もない人もみんなごちゃまぜ』で『地域の茶の間』をつくる』なんて口で言うほど簡単なことではないから。

もちろんそれを成り立たせる河田さんならではの工夫がたくさんあるのですが、それ以上に河田さん自身の人柄に人が集まってくるのだと感じました。彼女のように優しさを分け与えられる強さを持ちたいと強く思いました。

幼子を抱えた私がなんとか卒塾できたのはメンバー、林さん達事務局スタッフ、講師の皆様が温かく見守って下さったお陰です。

本当にありがとうございました。

氏名	いとうかよこ 伊藤加代子
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	草津市



## プロフィール

趣味はスポーツと音楽です。学生の時はグライダーで空を飛んでいました。

今、コカリナ（木の笛 21 所属）の音色にはまっています。

音楽やスポーツ、いろいろなツールを取り入れてノーマライゼーションな地域活動ができればいいなと思っています。

滋賀県登録要約筆記者（パソコン要約筆記）として、聴覚障がいの方たちの情報保証のお手伝いをしています。県立聴覚障害センターや草津市社協が活動の拠点です。

おうみ未来塾では食育グループに所属しました。「食」はいろいろな事に繋がっているのので、地域活動のツールになると思ったからです。関連して、生涯学習インストラクター（2級）を取得しました。

未来塾の2年間は、仕事、家庭、との両立がなかなか大変でしたが、「今できることをやる！」をモットーにこれからも頑張りたいと思います。

## おうみ未来塾で得たもの

滋賀のよさ。1年目の講座に続き曲谷グループの「みちひらきまつり」で知った奥伊吹のすばらしさ、グループ活動した守山、近江八幡市の新たな発見。

そして、やはり7期生の方たちはじめ、いろいろな人との出会いでしょう。でも、自分から働きかけないとだめということ。

また、7期生は2年目もグループを越えてのつながりがあったことがよかったと思います。

## これから学ぶ人に贈る言葉

年齢や入った目的も様々、そういう中で皆が思い通りの活動をするのはとても難しい。でも、その中でひとつでもふたつでも自分にプラスになるものを見つけていくのが大切だと思います。

グループ研究はあせらず、じっくり練った方が良くと思います。

氏名

いなだひろふみ  
稲田 博文

所属グループ

絆：世代 & 地域（子育て応援団）

在住市町

大津市



### プロフィール

- ①生活協同組合コープしがに勤務しています。今は、北大津センターにいます。昨年、10月に福祉ネットワークセンター「ゆめふうせん」を併設したセンターが立ち上がりました。そこでは、誰もが気軽に子供連れやお年寄りも自由にたちよれるスペースがあります。毎日、多くの方がご利用頂いており好評です。
- ②絆：世代&地域（子育て応援団）では、子育て支援としての居場所作りを県内にたくさん作るという目的で活動してきました。個人的にも、昨年5月に男の子が生まれ、3人の子育ての真っ最中です。たいへんですが、いろいろ逆に自分が人間として教育されているようです。でも、子育てはほんとうにたいへんだということを身をもって実感しています。核家族化が進み、わからないときや子供が病気になったりしたときどうしようと思う時が多々あり、気軽に相談やアドバイスしてもらえるとこや人が身近にあれば助かる事もたくさんあると思います。

### おうみ未来塾で得たもの

子供ができ（理由にはありませんが）未来塾にも参加する機会が少なかったことを反省しています。しかし、世代を超えた方とお話や知り合いになれてよかったと思います。

又、絆：世代&地域（子育て応援団）では、2/18日に河田さんを新潟からお呼びしての講演会はとても勉強になりました。高齢化社会を迎えた現在、地域でどのような事が望まれ、地域で人と人が結びつく事の大切さを知らされました。

絆：世代&地域（子育て応援団）では、未来塾が終了しても、「居場所作り」を県内にたくさん作る事を目標にいろいろとお手伝いができたら良いと思います。

未来塾で、いろいろと勉強する機会があり感謝しています。

氏名	いのうえじゅんこ 井上 淳子
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	長浜市谷口町



## プロフィール

年 齢……60歳以上（孫5人のおばあちゃんです）

勤 め……ずうっと、病院の栄養士や中・高校の常・非常勤講師

趣 味……草木染め「お市道楽」と名付けて、田舎のすばらしい、気持ちよい空気と水と共存、四季折々の色をショールに奏でて楽しんでいます。早朝夕方の色彩や構図、シャッターチャンスに感動の毎日です。

今の仕事……食育活動をますます失敗を乗り越え事業化していくこと

## 卒塾にあたって

2年前、日頃から「食の話題」の仲良しグループと何かやりたいなあと思いつつ、町の「町づくり大学」を受講し、そして続いて未来塾を受講しました。活動場所を借りることが出来、“やるかっ”の意気込みで、未来塾で学び得るものを同時地域で展開しました。

バランスをくずした食を「日本型食生活」で健康で長生き、生き生き楽しく過ごせるよう、ベンチャーではなく使命実現で「おばさま活動」として、お金もなく元気パワーを頼りに無理をせず（年なので健康が気がかり）こつこつと楽しんで・・・と始めました。この塾に出会えて本当に良かったです。学びがいっぱいありました。前へ前へ進む勇気、バイタリティあふれんばかりの実行力、私のような年齢でも、親切に出来ないところを教えてください、カバーしてくださる塾の皆さんや、センターの職員の皆さんの人間性に出会えたこと、1年目のフィールドワークを通じて、輝いた人や町、プロデューサーの一言一言、たくさんの前進前進のエネルギーをいただき勉強になりました。

2年目には所属の皆さんと親切な人間づくりと実践活動あれもこれもと活動することが出来ました。目の前の活動が忙しく、欠席しがちな落ちこぼれの私なのに、メールしていただき参加することが出来ました。もっと時間が欲しい気持ちになったのも実感ですが、・・・センターの皆様には、仕事とはいえ、超えたお膳立て本当にありがとうございました。勉強しやすいカリキュラム、そして、塾長はじめ運営委員の皆様本当にありがとうございました。地域活動では2年目になって困ったことがいっぱい・・・これからだと思っています。

同時に諸先生方や、センターの皆様、塾生の方々のご支援をよろしく申し上げます。

氏名	い もり と し お 居 森 敏 夫
所属グループ	ま が た に 曲 谷 L O H A S 倶 楽 部
在住市町	彦 根 市 彦 富 町



### おうみ未来塾と私

2年間の未来塾の活動を通して、「地域プロデューサーとは何か」ということについて、多少は輪郭が見えてきたように感じている。

地域では自治会・弓道連盟・学校PTA活動などの経験はあったが、いずれもパターン化・慣例化してしまっており、参加している人にとって義務感と負担感を感じるだけで、あまり達成感・充足感を感じられないものになっており、直面している課題の解決につながるようなパワー・人を動かしていくダイナミズムに欠けるような感じがしていた。

行政と市民活動・NPOとの「協働」という言葉が使われ出してから、かなりの年月が経つが、行政の人間はあまり市民活動やNPOの実態を知らないことが多く、「協働」という言葉だけが先行して、どういう関わり方をするのか具体的なイメージを持ってないまま、闇雲に手を広げているようなところがあり、その努力が空転している部分もあるように感じる。

県内のいろんな地域をフィールドワークし、多様な主体による様々な活動が展開されており、それぞれミッションの達成を目指して活動を展開されている様子に触れることができたこと、何よりも「元気な人」に出会うことができたことが、今後の仕事の上でも自分自身の地域活動の上でもよい刺激を受けたと感じている。

税金を原資として行政から一方的に行政サービスを提供するという従来のスタイルから発想を転換して、行政と市民活動が互いに歩み寄り、お互いの知恵を出し合いながら地域社会の課題解決と地域住民の力を組織化するような「新たな協働のスタイル」を見つけ出すことができればと思っている。それは、行政を進める立場としても、一市民としても「新たな生き方」を見つけることになるのではないかと考えている。

### 今後取り組みたい活動とその思い

7期生のグループ活動は、いずれのグループも「現場に入ること」を前提として活動を展開した。私は、曲谷LOHAS倶楽部に所属し、奥伊吹曲谷地区をフィールドとして中山間地域の再生を目指して、8月にキャンペーンによる音楽イベントを開催した。開催に至るまでの3ヶ月半の必死の取り組みの中で、地元住民との交流が深まるなど得難い体験をし、メンバー同士のつながりも出来たが、一方、グループ員の中での意思疎通と合意形成の難しさ、組織として活動の難しさを痛切に感じた。

今後とも曲谷LOHASのメンバーとのつながりを維持し、今後の活動の展開方策を検討していきたい。中山間地域の再生と活性化のために、音楽イベントやエコツアーなどにより自然派の都会の人たちを曲谷に呼び込み、できれば定住するような人が出てくればという目論みでスタートしたのであるが、この基本認識についてはさらに検討が必要なのではないかと考えている。中山間地域から若い人が流出していく社会的・経済的な構造・要因を分析し、そうした大きな流れを変えていく方策を考えないといけないのではないだろうか？外からイベントを持ち込み、人を呼び込むという外発的発展ではなく、地域住民が地域を見直すことで埋もれた素材を発掘し、磨きをかけていくような内発的発展に発想を切り替える必要があるのではないかと考えている。

これと並行して自身の居住地においても、昨年1月に地域のボランティア組織を設立し、50代～60代の元気なシニアの活力を生かして地域を活性化することを目論んでいる。絆：世代&地域グループの「地域の茶の間」を滋賀県下に100カ所作するという活動趣旨に賛同して、その一つを私の地域で育てていきたいと考えている。

また、県の行政を進めていく上でも、単に市民活動を便利使用するというような発想ではなく、県民が能動的に県政運営に参画してもらえるような協働のあり方・事業の手法について考えていきたい。

氏名

おおかわらよしこ  
大河原佳子

所属グループ

ひょうたんから K O - M A

在住市町

蒲生郡日野町



## プロフィール

滋賀県生まれの滋賀県育ち。地元のケーブルテレビ局のレポーター・キャスターとして町内各地を取材、『地域』の皆さまとふれあい、『地域』の情報を伝えてきた。同時に、『地域』の国際交流協会で自らも楽しみながら『地域』の皆さんの国際交流活動を支えてきた。

そして2006年、『地域』にこだわった活動のヒントやノウハウを得るため地域プロデューサーを目指すおうみ未来塾に入塾。現在、甲賀市国際交流協会（海外交流事業本部長）、は〜とふるラインかふか（電車マナー向上ボランティア）、まちづくり団体・夢作戦みなくち21（事務局担当理事）、西大路女性会（庶務担当）などのボランティア活動をしているが、これらの活動に、この2年間に未来塾で学んだことをどう生かすか？『地域』の課題を見つけ、ニーズに応えられる、どのような活動をしていくか？が目下の課題である。

## おうみ未来塾で得たもの・・・今後の想い

この2年間の「学び」を通して、まず、県内で様々な方面でそれぞれ活躍されている方々＝7期生の皆さんとの「出会い」が大きな収穫だった。4つのグループのテーマは違っても、最終的には「地域の素材を生かし、地域のニーズに合った、地域（人）が元気になる、そして自分たちの地域は自分たちでつくり、地域が豊かになる（心もお金も）」というところにたどり着いたのではと思う。

極端かつ奇抜かもしれないが、「(仮) あなたの地域を盛り上げます！」とかなんとか、発想が豊かで実行力のある、そして、いろんな才能をお持ちの7期生の力を結集して思い切って起業もできるのでは？と思う。

『地域』の伝統や文化を保存・伝承するためのアーカイブづくり、そういった『地域』に暮らす人たちの居場所づくり、地元の素材にこだわって、それを生かした「食」の提供や「食育」の出前講座、地元の資源を利用した地域再発見プロジェクトの仕掛け屋など、とことん『地域』にこだわり、『地域』を活性化する仕組みづくりをする組織のようなものだろうか。

また、地域プロデューサーを『地域』に送り出す仕組みをつくり、活動や就職の際に、未来塾の修了証書が社会的にも認められるディプロマになればいいと思う。

地域プロデューサーやコーディネーターに求められるのは、「たくさんの知識」よりも「たくさんの人」を知っていることではないだろうか。今後もたくさんの方との「出会い」を大切にしながら、7期生の皆さまとは、お互いの活動を支えあうメンバーでいたいと思う。

卒塾後は、OB会の幹事をさせていただくが、また皆さんの幅広いご意見をお聞かせいただきながら、有意義なOB会を開催できればと思います。例えば、もし、何らかの活動を続けられるグループがあれば、そのフィールドを順に訪問させていただき、その『地域』の「ザ・自慢」を紹介させていただき、最後は「船作」で語り明かすツアーなんか面白いかな〜とか・・・(^\_^) ;

これからも長いお付き合いをさせていただければ幸いです。2年間ありがとうございました。

氏名	かわむらよしこ 河村好子
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	東浅井郡虎姫町



## プロフィール

子どもたちが大学や就職で自立したのを機会に専業主婦から脱却(?)したのが、約6年前です。

仕事探しのハローワークで紹介されたのが、ある小学校での生活体験推進員。子どもたちの授業サポートでした。その翌年には、青少年関係の仕事を町役場で始め現在に。

小学生の子どもの体験学習等を企画・運営し、子どもに「楽しかった」と言ってもらえるのが喜びです。その過程で、「よさこいソーラン」に出会い、チームを立ち上げ4年になります。仕事もよさこいも、いろんな出会いが大事だと思うようになり自分の未熟さも感じ始めたころ、誘われて「おうみ未来塾」に入塾。びわ湖北部の田舎町では知り合えない多くの仲間と学んだ2年間は、貴重な時間、宝物となった。ポジティブシンキングの大切さを身につけ今後の活動につなげたいと思う。

## 卒塾にあたって

入塾1年目、正直なところ「地域プロデューサー」って??? 私は、そんな大層なものになるかな? 地域の課題を見つけ解決をめざすって、どうやって? 地元でできるのかな?

2年目は、今一番興味があった食育をグループ研究とした。「お米づくり」と「共食」を通じていろいろなものとむすびたい!! 考えを共有するもので集まり、右往左往しながらのグループ研究だった。

そこで感じたこと。

未来塾の2年間は、長いようで短い!

1年目のフィールドワークは良しとして、2年目のグループ研究で成果を出すということの難しさを実感した。おむすび隊は、お米づくりの田植えという時期が迫っていて準備期間が、ほとんど無く見切り発射をせざるを得なかった。そのため、行き違いが生じたことも事実である。仕事を持ちながらの未来塾、北から南まで滋賀を縦断する地域からのメンバー参加、そこで大切なのは「話し合いの十分な時間を持つ」ことだと思う。グループ研究で共有の思いを持った同志、信頼関係を結べた仲間を得たことは嬉しい。

卒塾後、地元で何ができるのか。

「地域プロデューサー」なんて無理だが、私にもできることを今後見つけて行きたい。

氏名	さかがみのりこ 坂上 則子
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	甲賀市水口町



## プロフィール

音楽関係の仕事と、子ども達の学習支援などの仕事をしながら、技術的な面での指導だけでなく、精神的なフォローの必要性を感じ、大学で“発達と教育”を勉強中です。

入塾2年目には、逢味おむすび隊の活動の他、いろいろな分野の活動に参加することができました。おまけに、3つの資格もゲット。

これからの人生を思い残すことなく生きたいと、あえて、がんばってもいいかな、新しい事にどんどん挑戦して、いつも元気で前向きな自分でありたいと考えています。

## 卒塾にあたって

【逢味おむすび隊】は、スポーツ少年団の子ども達とその保護者を対象に「お米づくり」と「共食」を中心とした食育プログラムの実践と、近江八幡市での子育て学習講座『五感で味わう食のおはなし〜もっと食を楽しもう〜』の企画運営という2本立ての活動をすることができました。

「五感食育講座」は、今後も、県内各地で、特に若い保護者層に対して、食への関心を高めてもらう機会を少しでもたくさん提供できればと考えています。

\*\*\*\*\*

自分の活動が、どのような利益を生み出すかについては、それぞれ、かかわり合っていく意欲や、意思決定する場にいるかどうかによって異なってきます。

『できない！ できない！』というよりも、『今、自分にできることは何か！？』を自問することにより前が見えてきますよね。

■ 未来塾は、全てが凝縮された学びでした。  ■

■ 未来塾は、私を成長させてくれました。  ■

未来塾での学びはもちろんですが、みなさんと出会えたことは大きな財産です。卒塾後もよろしく願います。

氏名	さか て たか お 坂手孝夫
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	大津市



### プロフィール

入塾の2005年6月から卒業の2007年3月までの約2年間には、地域プロデューサーになりたくて塾生活動と塾外活動に励み、悲喜こもごもの多くのことを経験しました。卒業にあたり、残念ながら、「地域プロデューサーに成り損なった」と総括せざるを得ず、ご指導していただいた運営委員の先生やおうみ未来塾の先輩、一緒に学習した同期生とご支援していただいた事務局スタッフに申し訳なく思います。

おうみ未来塾第7期生としては、前半の用意されたカリキュラム履修（大津会サブ講義を含む）はどうかこなしたものの、後半の自主的なグループ研究活動「みんなの居場所づくり」はうまくいきませんでした。自分の力量に比べ取り組む課題が大きすぎたようです。

他方、この間、塾外でボランティア活動を積極的に行いました。それは、おうみ未来塾で学ばなければ身に付かなかった行動力の証だと思えますが、陰日なたの多くの方のご好意とご支援なしにはできないことでした。入塾前からの活動を継続すると同時に、おおつ環境フォーラム恒例のエコまつりの実行委員になり開催企画に参加したNPO・企業・行政3者の地域協働のシンポジウムを成功させその録音テープの文書化を実現したこと、大津市で活動するNPOの活動基盤整備を担う大津市市民活動センターの事務局長を早期に辞任しその重責を果たせなかった悔恨、大津市シルバー人材センターの就業開拓推進委員になり会員の就業率向上に取り組んでいること、坂本城を考える会という地誌研究とまちづくりを目指す団体の事務局長になり活動の切り盛りをしていること等、嬉しい思いと辛い思いを緋い交ぜながらやってきました。

今後は、心身の健康に留意しながら、後半のグループ研究活動で出会った方々との交流を継続して「みんなの居場所」の運営に関わっていきたいと思います。

おうみ未来塾の同期生のご交誼と事務局スタッフのご支援に厚く御礼申し上げます。

氏名	しおたにとしあき 塩谷 寿朗
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	守山市



## プロフィール

1955年、守山市生まれ。サッカーの競技選手をめざすが挫折し、20歳のときにドイツ（当時は西ドイツ）に短期間スポーツ留学をする。その後、少年スポーツの指導を中心にキッズから一般まで生涯スポーツの普及に取り組む。「滋賀県にスポーツ文化を根付かせる」（ミッション）ため既存組織の枠をこえ、また健康福祉分野との融合を視野に入れ、滋賀県民総参加のスポーツワールド、スポーツコミュニティー構築のため奮闘中。

現在、滋賀県スポーツ少年団本部役員、滋賀県体育協会評議委員  
守山市サッカー協会会長、守山市体育協会専務理事 など

元、日本スポーツ少年団指導者協議会委員、滋賀県サッカー協会常任委員 等

## おうみ未来塾で得たもの

1年目最初の講義（6月25日彦根）の一週間前に足首の骨にひびが入り、JRの駅から会場まで“死ぬ気”でたどり着いたのがつい昨日のようになつかしく思い出されます。（この日が50歳の誕生日でした。）ここからが未来塾の始まりでした。この日にお話をうかがったNPOほほハウスの山脇先生や運営委員長・北村先生の講義、そしてその後いただいた「報告書」は私にとってのバイブルとなりました。折に触れては熟読し20数回は目を通したように思います。

未来塾の活動で本当にたくさんの方のことを学びました。いくつかに限定するのはしのびがたいのですがこの場ではお許しください。

一点目はなんと言っても「ネットワークの構築」です。淡海ネットワークセンターやおうみ未来塾の知名度にもたすけられ、これまでも関わりがあった各主体（例えば守山市役所であり滋賀県立成人病センターなど）の中での新しい出会いが生まれ、“勉強会”や“交流会をやる会”として具体的に新しく誕生したことがあげられます。

二点目は「積極的傾聴の実践」です。相手の話に根気よく耳を傾ける。そして相手の気持ちに共感し、否定しないで話を受け入れるように努力する姿勢、態度が必要になるということ。こちらが積極的傾聴の姿勢を示すことで、相手は聞いてもらえたという安心感をもち、自発性が引き出されるとのこと。長年少年スポーツの指導者として活動し今後もその責に当たろうとする私自身にとってもかけがえのない“実体験”を積み重ねていただきました。事務局・林さんをはじめ多くの方にありがとうの言葉をそえ「前進するのみ」

氏名	しらいしかずお 白石 一夫
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	大津市坂本



### プロフィール～おうみ未来塾で得たもの

滋賀で20年間、協同組合に関わり現在に至っています。くらしそのものをフィールドにした生活協同組合の運動ですが、私自身20年目を節目に、一歩外に出て自らを見つめてみたいと思い未来塾に飛び込み現在に至っています。生まれは、滋賀、育ちも滋賀、幼いころは、田圃の水路にザブザブと入り、素手でフナなどバケツにいっぱいになるまでとれたものですが、今ではその環境も大きく変わり、水路は全てU字型のコンクリートでつくられ、こどもが自然と親しむ身近な環境がどんどんと失われていくのを憂いでいる一人です。そのようなことが影響し、いつも車には、網、竿等を用意し、昔ながらの水路を見つければ網を入れ、タナゴがいれば喜びという小さな楽しみを味わっている大人になりきれないこどもみたいな人間です。


未来塾は私にとっては、私自身、そして動いている地域をみる大切なステージであったように思います。それまでは仕事の関わりを通して、漁業者との協同での地産地消や、市民と協同しての子育て広場づくり、農園づくりなどを行ってきましたが、未来塾に関わりフィールド体験などを通して、あらためて一市民としてどう地域と関わりを持っていくのかを深く考えさせられたものでした。地域には、もっとよくありたいと思い地域の環境にあった具体的な実践を本当に多くの方が熱心に動いている。ひとつひとつは大きな動きではないが、それがつながった時に地域が輝くことを体感した次第です。またつながりあいは、共通したものでなくても、相互の存在を認めながら、違ったもの同士が協働することで、大きな広がりが見られるのだと確信しました。未来塾の命題は地域プロデューサーとして育つことですが、十分に活動できていない中で、どこまで自分自身高められたのかは、これからじっくりと検証したいと思っています。

### 今後取り組みたい活動とその思い

「絆：世代 & 地域（子育て応援団）」グループの活動は2月18日のフォーラムを軸に一挙にめざすものが内外ともに認知されたところです。県内に「みんなの居場所」を100箇所つくろう。その居場所づくりは、私ひとりからでも始められる！また地域の中で想いを同じくする人同士でもつくれる、居場所の形態もどんな場所でもいい、内容も一辺倒ではない、できることからまずは想いをもつ人で一歩踏みだそう！とグループ以外の参加者もあわせて相互で確認しあったものでした。この「みんなの居場所」づくりは未来塾の7期生の域を超えて、関わりに加わってもらい仲間が増えていくように感じています。またそうでなければ、実際の多様な居場所があちこちに立ち上がっていかないと感じています。

修了の際にあたり、ここまで熱い想いをもって、想いの輪を広げてきた「絆：世代 & 地域（子育て応援団）」の活動を持続可能な居場所づくりに今後も微力ながら関わっていきたくて思いを持っています。

またこれまでの「絆：世代 & 地域（子育て応援団）」グループの活動を振り返り、ひとつひとつの場を大切に、その場に集まった人の想いを汲み上げ、想いを繋ぎ、次の場を見せ、集まった人の背中を少し押し、ここまで到達した「絆：世代 & 地域（子育て応援団）」グループのコーディネート力は素晴らしい！これからは大切な歩みとなります。みなさんとの関係も持ち続け、そして絆へのみなさんからのご協力もいただきたいと卒業を期に思っています。

氏名	たけなかまさや 竹中雅哉	
所属グループ	まがたに 曲谷 L O H A S 倶 楽 部	
在住市町	東 近 江 市	

## プロフィール

- ・ 東近江市（旧八日市）出身、まだまだ未熟な25歳。
- ・ 家族は妻ひとり、ダウン症である娘（ゆい）ひとり。
- ・ 誰の影響か、中学生のころは「八日市市長になりたい」と言うような、地元が大好きな人間です。
- ・ アマチュアではあるけれど、学生時代に培ったインタビュー経験を今後の人生にも生かしたいと思っています。
- ・ 職業は、製造業で生産管理を行っていたが、入塾期間中、会社経営をしていた父の逝去により、急遽、後継として経営を行うことになった。会社は情報管理システムなどのソフトウェア開発、WEB制作、インターネットプロバイダーを営む、地域内でも数少ない総合的なITソリューションを提供しています。

## 卒塾にあたって

滋賀という地域をより魅力的な、イキイキしたものになりたいと思い入塾したものの、2年目に入るあたりから、存分な活動ができなかった。そのことについては今も残念で仕方がないけれど、いくつか大切なことに気付かせていただいた。

ひとつは地道な活動が大切なこと。地域プロデューサーとして活動するには、情熱も大事であるが、コツコツとやっていくことが何よりも大切だと感じた。仲間が少しずつ、でも着実に物事を構築する姿にはさすがだと感じた。若さのせいにはしたくないけれど、これからはそのことをいかしていきたい。

ふたつめは地域プロデューサーであるためには、プレーヤーではなく、一歩ひいた大きな視点をもつということ。活動中、私は何よりもまず自分がプレーヤーでありたかったようだ。自分で何かを成し遂げたいと思っていた。そのこと自身は悪くないけれど、そのせいで視野がせまくなり、心身ともに無理なものを抱えてしまった。自分が本当に成し遂げたいことは何だったのか、それが大切だ。僕はプレーヤーになりたかったのではなかった。以上、そのほかにもたくさんのことを学び、自分自身の課題にも気付かせていただいた。

今後も地域プロデューサーという視点は持っていきたい。今後、地域の自立、個の自立はますます大切になってくると思う。誰もが「ありのままに」自由にイキイキと生きたいという願いが人間にはあるからだ。私はその願いを自分でも叶え、またこの地域の人々の願いを叶えるお手伝いをしたい。特に、私にはダウン症である長女がいる。この子の将来のためにも、障害者の生きがいをお手伝いできる人間になりたい。

皆さん、これからも末永くよろしく申し上げます。

氏名	つちだしげお 土田 滋男
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	愛知郡 愛荘町



## プロフィール

団塊世代の一番中心の世代です。  
趣味は身体を動かすことばかりで（考えるより行動するほうが好きです）、マラソンで何歳までサブ4（4時間以内で完走）できるか挑戦中です。それと年甲斐もなくスノボにはまっていて自分の子どもより若い人たちと跳んだり、曲がったりと楽しんでいます。（スノボ歴約20年です）

「NPO法人あいアイランド」で子育て支援のまねごとをしながら「滋賀子育てネットワーク」のみなさんと少しでも子育て環境をよくしたいと努めています。

趣味のマラソンの関係で「びわこタイマーズ」という視覚障害者のマラソンの伴走のお手伝いや、毎年9月に希望が丘で開催される「全国視覚障害者駅伝大会」のサポートを楽しみにやっています。

マラソン仲間のサークル「近江よし笛RC」の事務局担当として、近江八幡市のよし笛ロードの清掃活動で、草刈り（ほとんどこれですね）や清掃、をしています。（これは自分達のランニングコースをきれいにしておきたいという、自分達のためですが）

## 今取り組んでいる“みんなの居場所”づくりとNPO支援

絆：世代 & 地域（子育て応援団）グループの活動はようやく、その目指す方向がはっきりしてきたところです。  
“みんなの居場所”を滋賀県に100（つまりいっぱいということ）カ所作ろう、という目標に向かって未来塾7期生だけではなく、いろんな方に仲間になってもらおうという活動をスタートさせています。

“みんなの居場所”とは、私にとっても“居場所”なんだということを活動していく中で感じています。  
特に未来塾卒業生や現役生の皆さんの参加や協力がいただけることを、期待しています。

NPO支援といっても幅広いとは思いますが今まで自分が活動する中で、得たことは全て提供して、いろんな市民活動をされている方の活動のお手伝いをさせてもらえることが、自分の幸せにつながっていると思っています。

自分に出来ることでお役に立てることがあれば、こんな嬉しいことはない、この歳になって知ることが出来ました。

NPO設立や、運営の相談をいつでも受けますので気軽にお声かけください。（簿記会計もOKです）

卒業後も未来塾のみなさんとはつながり（絆）を持ち続けていきたいですね。

どうかよろしく願いいたします。

氏名

とみなぎよみ  
富永清美

所属グループ

ひょうたんから K O - M A

在住市町

栗東市下戸山



### おうみ未来塾で得たもの

地域活動へと踏み出すことにはかなりの壁を感じ（手だてがわからない）、足踏み状態が続いておりましたが、未来塾への入塾をきっかけに、一挙に実践へ駆け込むことが出来たように思います。活動への想いは、母の高齢が私の心に沁みだころから膨らみ始めました。高齢化時代に突入して介護保険が施行され、「個人の尊厳」が謳われているにもかかわらず、施設の現場に入ると上滑り待遇が目立ちました。随分心が寒くなったものでした。

「何かしたい、でも何を」と言う迷いの中で入塾を決めました。入塾初年度は、フィールドワーク、ディスカッションなどの研修が楽しく、何よりも7期生の面々の個性が魅力的でした。仲間と語り合うことで活動への方向付けが出来たようです。何故なら、地域へ飛び込み、行政の真っ只中で人脈とチャンスを掴むべく「朝市」を開き、コミュニティセンターの職員になって町づくりに参画しようと考えたことは、即ち「未来塾7期生」の実践だからです。

しかし、残念ながら2年目のグループ活動にはほとんど携わってはおりません。コミセンでの活動に追われ（全く私は仕事の要領が悪く）、休日も返上するほどでした。グループの皆さんにはとてもご迷惑をおかけしました。が、正直申しますと、グループ活動の進捗状況に合わせて、ひそかにライバル意識を燃やしていたのかもしれない。羨望とともに。

この2月に「子どもの未来を考える会」という、もう一つの会を立ち上げました。どうやら京都新聞の助成金の手応えもありそうです。助成金へのノウハウはグループのメンバーから学びました。上記の「子どもの未来を…」の幕開きイベントとして4月1日（日）に「関西京都今村組」のよさこいダンスチームとの共催で「花見会」を行います。

活動は今始まったばかり。不安と期待が入り混じり、少し参ってもあります。しかし、グループ研究活動に際して全く努力を見せようとしない私のために、活動状況を知らせに来て下さったり、また、色々な知恵を授けてもいただいたり、とメンバーや事務局の方には本当に感謝しています。そんな想いが私の背中を「どん」と押ししてくれると思います。

未来塾を通して、「やろう！とまずは思うこと」「活動・・・まずは現場から」を体験しました。7期生の皆さんの顔が妙に懐かしいです。これからも皆さんと協力し合えれば幸いです。

氏名	なかがわとよかず 中川 豊一
所属グループ	ひょうたんから K O - M A
在住市町	近江八幡市



### 今後取り組みたい活動とその思い

なんとなくシナリオが見え出した鳥町のドキュメントづくり。メンバーの思いが地域の人たちの行動に結び繋がりはじめてきた。映像を撮りながら地域の問題点を示していく、その問題について20代から70代の人たちが同じ場所で話し合う。この町では若者の役割（責任）、大人のフォロー、老人たちの思いといった話題が同じ土俵に乗ることは、今までは考えられなかったことである。まだ始まったばかりだが、次の落とし所どどのように展開させていくか…。これが今の課題です。鳥町が新しいコミュニティを形成していく過程で、未来塾のネットワークがどのように関わって行けるか、そのプロデュースをどのように仕掛けていくか、他の活動とどのように結びつけるか、時間を掛けながら地域に根ざした活動を行いたい。

### 地域プロデューサーのイメージ

地域の問題点、課題、資源（資産）、人等の抽出を多角的に発掘し、地域に合った形で新しい切り口を見出し、地域の人たちが無理なく持続可能な形で取り組めるシステムを創り上げること。

### 地域プロデューサーに求められること

- ・人脈（必要とされる人材のネットワーク）と信頼。 ・フィールドへ足を運ぶ行動力。
- ・ファシリテーターとして、個々（メンバー）の潜在能力を発揮させる力。 ・持続可能な形にするマネジメント力。
- ・五感による視点が豊かである。 ・目標到達までの戦略立案力とその場での判断力
- ・とにかく最後まで楽しくやり遂げ、その満足感を共有できるゆとり

### おうみ未来塾で得たもの

- ・個々では到底達成できない目標も、スタッフのモチベーションを高めることで可能になる醍醐味。
- ・素晴らしい能力と豊かな感性を持つ仲間との出逢い。 ・期待される楽しさと心地よい？プレッシャー。
- ・閉塞的なイメージを持っていたこの地域を宝物として気付かせてくれたモノの見方。
- ・色々な地域で素晴らしい活動を行っている人たちの生の情報。 ・企業と地域や市民活動の係わり合い。

### グループや団体で活動するとき大事なこと

- ・目標とする事業を行うための作業を細かく洗い出す ・色々な意見（アイデア）を出し合う場。またつなげていく手法。
- ・個々の特性や得意分野に適した作業分担を行い、リーダーに情報が集まるようにする
- ・常に方向性を見失わないようにする（何のために行っているか）
- ・リアルタイムに情報交換するシステムは必要だが、顔が見えない、声が聞こえない所で物事を進めないようにする。
- ・リーダーはとにかく足を運んで現場で判断する ・いつもつながりを視野に入れて行動する
- ・金銭面での負担をなくし、予算に見合った事業計画を立てる。また収支の内容は常に公開して公平に行う

### これから学ぶ人へ贈る言葉

この2年間、私にとっては長く感じています。それは2年前に初めて知り合った仲間とのつながりで信頼関係が保てたこと、内容が全て濃密で、達成感が味わえたこと、次へのつながりや期待を負うことになったことなど、到底2年間（正味は1年間）で出来そうにもないことを、日々続けられたことが原因です。確かに仕事を持ちながら取り組むのは大変ですが、もし勤務先に融通が利くのなら、ある一定期間は目をつぶって貰うようにしてください。それだけの価値を作り出せる場です。

### 卒塾にあたって

これも通過点。やるたびに次が出てくるスパイラル底なし沼状態です。そのたびに新しい出逢いがある楽しさ。これからは急ぐことなく私たちのペースでじっくり取組める内容にしていきたい。これが地域の方が望んでいるスピードだと思います。入塾時は何のフィールドも無く、傍観者のような立場で参加していましたが、いつの間にかどっぷり浸かってしまいました。我が地域も少しずつ変わっていく姿が見え始めます。地元幼稚園の園児数が1年前は8名から出発。本当に 存続の危機だったものが保育園から幼稚園への編入が増えて、来年度の園児数は31名になったようです。小さなことで、直接関係が無いように見えますが、権座での体験は少なからず影響しています。まだまだ問題だらけですが、地域のことは地域でという考えが少しずつ身に付き始めたのでしょうか。



氏名	なかもりみつひこ 中森光彦
所属グループ	まがたに 曲谷LOHAS倶楽部
在住市町	兵庫県神戸市東灘区

## 今後取り組みたい活動とその思い

私の人生や仕事のミッションは、「日陰に光を注ぐ」ことである。

現在、日本の社会構造が抱える「日陰」とは、少子高齢化、過疎化、中心市街地の空洞化、魅力や個性の皆無な街づくり、若者のイジメ問題やニート現象など。このような問題にメスを入れ課題を解決する臨床医学の名（迷？）ドクターとして都市計画専門家のノウハウも發揮して、以下のような地域プロデュースに取り組んでみたい。

### ①まちづくりと文化政策との融合

伊吹でのイベント「EVE 氣みちひらきまつり vol.1」を通じて発見したことがある。

それは、まちづくり専門家、行政マン、地元住民、そしてアーティスト達にも共通した「思い」や「夢」、そして「悩み」を抱えているということ。例えば、地元住民や行政は「自分の住むこの地域の良さについて、もっと都市住民に知ってもらいたい」という悩みをもち、一方で、多くのアーティスト達は、美しき中山間地こそが日本人のアイデンティティであり、創作活動のインスピレーションの源泉地であることに気づきつつあるようだ。あのイベントでは、そのような彼らの共通の希望を引き出しコーディネートすることができた、という意味では成功した。もちろん、一夜にして曲谷という地域とアーティスト達が一転して奇跡的にも「有名」になったわけではないが、何か化学変化を起こしたは確かである。例えば、「あの会場に集まった若者達が今年の夏も曲谷に帰ってくるだろうし、そして、地元もそれをたいそう楽しみに心待ちしている」、そういう心の繋がりがこそが、「交流機会の創出」ということの本物ではなかろうか？曲谷で学んだノウハウを發展して、みちひらき vol.2の継続的な活動や、全国各地へのフィールドへと展開していきたい。

### ②風水まちづくりへの挑戦（地域プロデューサーは、Dr.コバを目指す）

「風水まちづくり（私の造語）」は、直接的には地域プロデューサーとは関係ないかもしれない。

巷で話題の「風水」。運氣開運のためには、その人と相性の合う「方位」や「色」があるという。京都などの古い日本のみやこづくりに陰陽師といわれる風水師が都市計画をしきたと聞く。中国では現在も風水師がまちづくりに携わり、現在の北京や上海にみる驚異的な経済の繁栄も、風水師のなせる技なのかも知れない。ちなみに、学問の分野では「環境地理学」と定義されるらしい。

私達のような都市計画専門家や地域プロデューサーは、そろそろ、この一見バカバカしいとも思える「風水」を取り入れたプランニングを目指すべきではないかと、日々、感じている。戦後、目に見えないものを感じる力、自然の畏怖などの重要な感性を捨ててしまった日本人。このことが、現在のアンバランスな社会構造の一因であることも否めない。「風水まちづくり」には、これらの問題を解決する処方箋があるのかもしれない。

### ③沖縄やんばる地域のエコツーリズム関係者とコラボレーション

近年の活動フィールドである沖縄のやんばる地域で盛んな「エコツーリズム」などの現状についてメールマガジンのライターをさせてもらっている。エコツーリズムは、「地域活性化」、「自然環境の保全」など、その可能性や期待感はあまりにも大きい。その一方で、エコツーリズム先進地と思える沖縄でさえも、多くの課題を抱えているという現実も垣間見た。今後はこの分野を更に深く研究するため、やんばるのエコツーリズム関係者とのコラボレーションを展開したい。そして、ここで学んだ成果を近畿地方へ導入することが夢。

## 卒塾にあたって

プロデューサーという言葉から「映画監督」、「音楽プロデューサー」を連想する。実際、素晴らしい映画も音楽作品もプロデューサーの力の賜物である。例えば、ビートルズであれば、多くの歴史的な名盤のレコード・プロデューサーであるジョージ・マーティンの名前が浮かぶ。偉大なるプロデューサーこそが、アーティストの個性を引き出し素晴らしい作品を市場に創造する。このことは、地域プロデューサーも同様であろう。つまり、地域の文化・風土を客観的に評価でき、その素晴らしい魅力を引き出していくこと。そういう意味では、「空間プロデューサー」も同じベクトル上にある職業だと思う。素晴らしい地域プロデューサーがこの未来塾から輩出されれば、その数だけ地域が美しく再生されるはずだ。私の考える地域プロデューサー像とは、以下のような人材。

- ①カリスマであること 「あの人の仕事は一目でわかる」というような個性。他人のマネをしない、一匹狼の厳しい世界。
- ②失敗は許されない厳しい世界 自分の個性や成果を信頼してもらいクライアントから報酬をもらうわけだから、失敗は許されない。
- ③不易流行でありつつも、流行の最先端をいく 最先端、かつ、風化しないデザインやプランニングで地域をカッコよくプロデュースできる人。
- ④スーパーマンである 多種多様な人材と交流でき、ネットワークをつくり、そして、情熱をもって地域のために活動する人。
- ⑤金銭的には、“ある程度”リッチであること 社会的貢献度も高く精神的肉体的にもハードな仕事であるから、ボランティアではだめ。しっかりお金を稼ぎだし（たっぷり税金も払い）、有名になり、全国各地、はたまた、世界中に飛び回るぐらいの忙しさがよい。
- ⑥社会的にも認められた職業 ……のためには、よい成果を出し報酬を得るといふプロ意識をもつことだ。

氏名	ねぎやまこうへい 根木山恒平
所属グループ	ひょうたんからKO-MA
在住市町	草津市



### プロフィール～おうみ未来塾で得たもの

2004年7月まで、東京で舞台芸術（コンテンポラリーダンス）の企画制作者（アートマネジャー）をしていました。01～03年にかけて栗東芸術文化会館さきらで行った地域滞在協働創作型の公演事業に従事したのが、滋賀に移住するきっかけでした。現在はさきらの事業に、フリーの制作者として、あるいはボランティアとして、また今年度はさきら運営協議会公募委員として関わっています。

劇場（文化ホール）にばかりいると「劇場だけに芸術文化が存在する」かのような錯覚にとらわれそうになります。あるいは、劇場にあるものと劇場外のそれとを区別するようになる。そうしたちょっとした意識のズレから、現在の劇場の閉塞的な状況に至っているように思う。数年前まで「地域に開かれた劇場」というフレーズを気に入って多用していましたが、おうみ未来塾の2年を経たいま、「地域がつくる劇場」という風にちょっとした意識の変化が生まれてきています。立ち位置の変化かもしれません。

未来塾は、私にとって未知なるものとの出会い、対話、議論、協働の連続でした。尻の青い小僧として人生の先輩である塾生仲間ほかのみなさんに、愚な質問をぶつけ、あるいはぶしつけな議論をふっかけ、要領の悪い作業で回り道し・・・、甲斐あって、地域を構成する仕組みというか、関係性というか、精神というか、そんなことらを垣間みることができました。大げさに言うと人生観も変化したように思います。

地域に生きるカッコイイ大人になりたい。若いもんにとって、そこに目標となるカッコイイ大人がいるか、いないか、重大事です。

余談。（私も含めて）いまの若いもんは、自治の経験がとても少なく、また、その意識も弱いように思います。未来塾は、前向きなエナジー、異なる価値観をもつものが集まり、塾生が主体となって運営していく場として、とても貴重です。（と言いつつだいたい事務局のお世話になりましたが…。）

### 地域プロデューサーに求められること

7期生は、1年目の後半に（2年目のグループ研究活動に進む準備段階で）議論し、地域プロデューサーに求められる役割として「見渡す、つなぐ、調達する、広げる（続ける）」をかかげ、「たすけあい、みつけあう、フィールドに入り、現場で学ぶ」という視点からグループ研究活動にのぞきました。

その後のグループ研究活動を経て、自分に欠けているものとして、また同時に、地域プロデューサーに求められるであろう能力として、特に強く感じたのは、「対話力」「関係形成力」「粘り強さ」です。ごく当たり前のことかもしれませんが、地域の課題に対して、立場や価値観の異なる人びとと、着実に信頼関係をつくりながら、粘り強く対話していくことが肝要です。

余談。地域活動を「すると楽しいもの」「したいもの」へと、そのイメージを変化していくことができないか。楽しさや喜びを付加・伝達するのも地域プロデューサーの役割？！

氏名	はし 橋 としあき 俊明
所属グループ	ひょうたんから CO-MA
在住市町	野洲市



### 地域プロデューサーのイメージ

地域プロデューサーとしての必要条件としては、まず得意の分野で発揮できる能力や考察力を持っていること。次に地域を掘り起こす原動力となるリーダーシップとバイタリティを備えていること。そして人間的な魅力のあるパーソナリティをも兼ね備えていることだと思います。

県内のフィールドワークで、多くのパーソナリティから、五感を通して感じられた地域プロデューサーとしての地域に対する熱い想いや知識、知恵、バイタリティ、人間的魅力を、自分なりに取り入れて、地域プロデューサーは柄ではないので、「自分なりの地域スコーパー（スコープで掘り起こす人）」をめざしていきたいと考えています。（地域ストッパー??）

### おうみ未来塾で得たもの

一番大きい収穫は、人的ネットワークという財産を得られたことです。上述の地域プロデューサーをめざすだけあって、すでに「地域プロデューサー顔負けの人」「地域プロデューサーの卵（未来塾だけに半熟もちらほら…）」など多士済々のメンバーとネットワークを築けたこと、またそのメンバーが県内の各地のフィールドを持っていることなど、そのキャパシティは無限大です。

特に「ひょうたんから CO-MA」での鳥学区での実践は、多くのことを学ぶことができました。鳥学区のあったかな人たち、権座実行委員会の結束力、そして「ひょうたんから CO-MA」のメンバーの個性溢れるパーソナリティ・・・今後も活動を共にし、引き続き学んでいきたいという、郷愁に駆られる今日この頃です。

氏名	はやし けんいちろう 林 憲一郎
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	米原市



## プロフィール

平成元年脳内出血を発病し、左半身麻痺の後遺障がいが残る。

現在活動中の所属団体、

滋賀県身体障がい者福祉協会 評議員

スポーツ協会 評議員

米原市身体障がい者福祉協会 評議員

滋賀県脊椎損傷協会所属

湖北障がいの会「ガンバ湖北」 会員・事務局長 担当

不慮の事故や病気によって身体に障がいを抱え地域で暮らす障がい者が、自主性を持ち、主体的に生きていくために仲間・グループづくりの活動をしている。

なお、ガンバ湖北では、二ヶ月に一回の野外活動。体験バス旅行。スポーツ大会。機関紙の発行を行っている。

## 今後取り組みたい活動とその思い

身体に障がいを抱える体の不自由な人達と活動の輪を広げ、住みなれた地域で主体的に生き生きと暮らせる地域社会づくりを進めていきたい。

また障がいをもつ人たちだけの活動ではなく地域の子どもたち及び健常者の皆さんとの交流活動も盛んに取り組みたい。

私から障がい者としての活動は、どうしても切り離せない。

また米原市社会福祉の一環として、障がい者相談窓口が開設されます。私は相談員として活動する予定です。

## 卒塾にあたって

古くからの住民また新しい住民。様々な人が集まり生活を営む人々。その地域の課題は多い。その課題を見つけ、同じ問題意識を持つ人たちが集まり、市民活動・NPO活動・ネットワークにより行政と住民が協働で取り組むことで地域の活性化を図る。

私は、自分の健康管理の悪さで体の不調が幾度か起きた。これまで、あれも、これも出来ると有頂天になりすぎていたことを反省している。これまでのように遠くまで出かける活動はできないと思う。未来塾で得た知識をもとに、地域で障がい者である「私にしか出来ない！」「私だからできる！」「私だから分かる！」活動を進めていきたい。

事務局、7期生の皆さんありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。

氏名	ふじ た とも たけ 藤田 知文
所属グループ	ひょうたんから KO-MA & <small>おうみ</small> 逢味おむすび隊
在住市町	近江八幡市



## 未来塾で得たもの + 地域プロデューサーのイメージ

3年ほど前、毎日パソコンに向かうだけの仕事に嫌気がさし、ひよんなことからNPOの世界を知り、人や地域と関わる楽しさを知りました。そこで立てた目標が「県内に100人の人脈をつくる」こと。

そして2年前、「おうみ未来塾」に入塾。この2年間で、人的ネットワークを飛躍的に増やすことができました。この人的ネットワークこそ、プロデューサーの命であり、そのことを体験として知ることができたのが、私にとって、未来塾での最大の収穫だと思っています。

未来塾1年目の冬、同期の間で、「プロデューサー」とは何ぞや？「ディレクター」との違いは？という議論が白熱しました。その時は、抽象論で何となく判ったような気になっていましたが、卒塾を迎える今になって、ようやく「プロデューサー」という役どころが根本的に理解できた気がします。

グループ研究活動を通じて、大きなイベントも、小さなイベントも経験しました。助成金や企業協賛のとり方も、広報戦略の立て方も、地域との合意形成の手順も、最低限必要なことはひと通り学ばせてもらいました。実践を通じてこれだけ多くのことを学べるシステムは貴重だと思うし、何よりすばらしいタレントを持った大勢の仲間とめぐり逢えたことはとてもラッキーでした。

地域プロデューサーの役目は、その名の通り、地域（とそこに住む人々）をプロデュースすること。限られた時間と人と予算のなかで、工夫を重ねて1+1を10にも100にもして、地域が輝きだし、地域住民が動き出したとき、えもいわれぬ感動が押し寄せてくることなのでしょう。まだまだ道半ば。がんばらねば。

## 今後取り組みたい活動とその思い + おうみ未来塾に期待すること

「権座」が地域のものとして完全に定着するまでには、3年から5年かかるでしょう。「映像」への取り組みから派生したネットワークは、さらなる広がりを見せていくでしょう。「食育プログラム」は、自分のものとして消化し、スポ少からボーイスカウトへと応用・発展させていきたいと思っています。

おかげさまで、ほかにも「びわこオープンカレッジ」「近江八幡マップづくり」「自宅でパソコン教室」「八幡酒蔵工房」などなど、いろんな企画を抱いた人がいろんなルートで私のもとに舞い込むようになり、微力ながら、自分が「地域プロデューサー」として歩み始めていることを客観的に実感しはじめています。

これらの地域の期待に少しでも応えていくことが、お世話になった淡海ネットワークセンターや未来塾関係の皆さんへの恩返しにもなると信じ、今後もできる限りのことに挑戦したいと決意を新たにしています。

そうした中で、今後の未来塾に期待することは、OBを含む塾生のタテのつながりをもっと強化すること。OB同士がお互いの取り組みを知り、様々なコラボレーション、ネットワーキングを試みることを支援するしくみや、現役塾生がOBの継続的な取り組みに積極的に参画できるしくみをつくってはどうか。

全く新規の取り組みから、1年間で地域プロデューサーとしての十分な成果（＝「地域」に明確な変化を生み出したことを実感できること）を得るのは、経験上、かなり困難だと感じました。最低、準備期間を含めて2年間の取り組みが必要でしょう。そういう意味でも、大学の研究室がそうであるように、先輩の研究を現役生が引き継ぐような形式が取れないか、ぜひ、考えてみていただきたいと思います。

氏名	ふるさわりょういち 古澤良一
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	大津市



## プロフィール

未来塾にお世話になったときの「受講のしおり」の自己紹介を引用します。  
2005年6月に書いたものに、（ ）内の2年間経った現状を加えました。

後2年半で定年。(2005年9月にリストラにあった。踏ん切りがつけられてよかった。自分で時間が管理できるようになった) 自分の遊び場所を作りたい。(居場所ができた、今後、絆を通して、さらなる居場所を作る予定です。) 特技：なし、趣味：作成中(これから表に出していきたい。) 地域市民活動：なし(絆を通しての活動が見えてきた。)[(放送大学の)心理学サークル]に属し学んだことを地域にも生かしていきたい。(放送大学での1回/月の相談対応、1～2ヶ月ごとの発表会を学生以外に地域へ、放送大学の許可を得て、センターの掲示板に張ってもらう事が来た、今後さらに広めて生きたい。絆の居場所が出来た時、相談対応させてもらう)。「今、今、今 今を大事に」と思い、楽しく過して生きます。

これからもよろしくお願いします。

## おう未来塾で得たもの

1. 1年目では、滋賀県が小さく、身近になった(フィールドワークのおかげ)。
2. 2年年目では、これまでの生活では、会うことが出来なかった色々な方と話をすることが出来、友達の層が大幅に厚くなった。

### <成果>

- ・居場所(行く、話できる場所)を作るキッカケが多数出来た。
- ・上でも述べたように、塾生だけではなく、絆を進めていくなかで、これまでの会社生活から得られることが出来ない、話しが出来る人が多数出来た。友達として付き合っていけるようにしたい。
- ・絆：世代&地域(子育て応援団)を進めるなかで
  - ・会の進め方、会社ではない、各自が自主的に発言、自分で動いていた。
  - ・チラシを配布しても、人は、こない(口コミでお願いした人、顔ぶれが変わらない)
  - ・広報をしてくれる媒体の重要性
  - ・お金の重要性、お金の取り方(補助金の申請は経験できず、つぎトライ)
  - ・会場の設営、準備、受付
  - ・パネル展示の仕方

まだまだ経験が足りないが、これから続く絆：世代&地域(みんなの居場所)で経験していきたい。

氏名	みぞぐちあつお 溝口厚雄
所属グループ	おうみ 逢味おむすび隊
在住市町	米原市小田



### おうみ未来塾で得たもの

おうみ未来塾に入塾し、早や2年が経過し卒塾の時期が来た。私ども過去にあまり経験のないフィールドワーク（タウンウォッチング）やワークショップの技法、ポイントについて学んだ。この中で地域の現状や課題を分析し、今 そのコミュニティでは何を求めどうしようとしているのか、また、その解決手段としてのコンセンサスが得られているのか・・・等々 まちづくりを具体的に学んだ。

2年目のグループ研究活動においては、これまでに学んだことを実践することで、全員が研究テーマを提案し、めいめいがプレゼンテーションによるPRを行った。これらによりテーマが決定。私は「逢味おむすび隊」に所属し“食育”について研修を開始した。スポーツ少年団を対象に「お米づくりと共食」を通じて各種イベントを開催した。この体験は大変有意義なものであり、今後まちづくり活動に大いに役立つものと確信している。

### 卒塾にあたって

近年、地方の経済も大きく変わり逼迫する中、市町村合併が追い打ちをかけ「まちづくり」の構造が大きく変貌してきた。

地域と住民が担う新しい自治とまちづくりが変革しようとしている。さらに、ここに来て2003年9月地方自治法が改正施行、「指定管理者制度」が導入され、ようやく具体的施設が移管されてきた。

私は、未来塾を卒塾した後、自分の出身地域を主体に“まちづくり”に専念したいと考えている。未来塾を卒塾された先輩諸氏や同僚の方、また既にNPOを立ち上げておられる方等々とも相談し、行政や関係機関と連携しながら“協働・・・パートナーシップ”を尊重しながら かならずや地域プロデューサーを目指し活躍したいと考えている。

最後に、この2年間大変お世話になりました塾長、運営委員、各種講師の皆さま、および 淡海ネットワークセンター、おうみ未来塾の先生方に心から厚くお礼を申し上げます。

氏名

みやべみちお  
宮部 道雄

所属グループ

またに  
曲谷 LOHAS 倶楽部

在住市町

米原市 梓河内



卒業にあたって

## とびきり2年(旬) ヨク飲みました

我がLOHAS倶楽部のメンバー4名は  
いざわらぬ酒豪ぞろい。飲む酒量の  
レベルは驚かほどのハイレベルである  
会館の夕食前の1時(旬)に地酒一升と  
焼酎の本ボトル1本が空っぽに!!  
それからおもむろに夕食の卓につきまた  
またイワナの骨酒とビールをグイグイ。  
2年(旬)の飲みニヤニヤの回数と酒量と  
けは1期生から7期生の中でダントツ。  
これだけは自信をもって誇げたい。



2年(旬)  
あまり  
LOHASは  
まじりけは  
なかったなあ

おうみ未来塾  
で得たEは



ひとのネットワーク  
とイベントを助けて  
くれた同期生の  
温かい反響



3か月の取組を自みたい  
活動とその思い

中山(旬)地域に住む自分自身にとっ  
その由生と活生にはうつつとぞ。  
少多高令化と過疎化・コミュニケーション  
を薄く化せながら行事の伝承の危機と  
曲谷の課題はあらかる里の課題である  
我が中山(旬)地の地域資源を最大限に  
生かす「都市との交流」をキーワードにした  
森林公園づくりとエコツアーの(旬)発せと  
兵至酒交力果を伴う地域由生への挑戦を  
若手メンバーを動かしながら老体  
にしていったスタートさせました。


### これから学ぶ人へ贈る 8つの勇氣!!

1. 失敗を恐れぬ勇氣
2. 行動する勇氣
3. 恥をかかぬ勇氣
4. 決断する勇氣
5. 責任をきる勇氣
6. 泥にまみれる勇氣
7. 長いEに巻かれる勇氣
8. 自分を主張する勇氣



### EVE氣みらひらきまつり(雑記)

イベント企画立案から(旬)催までの  
3ヶ月半。昼夜を問わずにTとの  
密度は。目録日時代の最盛期を越  
え3Eのラスト。  
進めたいと思う自分と闘いながら。  
何れも我を熱くさせた。この  
不安と怒りと信頼と責任感の中で  
の熱い(旬)が。果ての曲谷をカッ  
と吹き飛ばした。今ではすっかり遠く  
の夏の夜のドラマのようである。

氏名	もり としひこ 森 俊彦	
所属グループ	まがたに 曲谷 L O H A S 倶楽部	
在住市町	大津市	

### おうみ未来塾で得たもの

- ・初対面の方々と接する時の第一印象の大切さ
- ・継続していくことの大切さ、及び、難しさ
- ・人の個性を見ぬくこと、及び、生かすことのすばらしさと難しさ
- ・人としての道徳

### 卒塾にあたって

自分ひとりだけでは、大きなことは出来なかったと思いますが、人のつながりを生かし、大勢の方の協力を得られれば、どのようなことでも前進できることを体験しました。

氏名

もり た のりつぐ  
森田紀嗣

所属グループ

ひょうたんから KO-MA

在住市町

大津市



### 地域に根ざしたたくさんのリーダーに接して

2年間の短い期間ではありましたが、県内のさまざまな地域活動を見せていただき、先進的な取り組みや苦勞を重ねられた様子を聞かせていただきました。

どの活動を進められている方々にも共通して感じられることは、生き生きと取り組まれている様子でした。しかし、それぞれに一方ならぬ努力の跡があり、活動の初期段階でのミッションの取り上げ方や協働してやっていける人材の確保、運営資金の集め方、長く続けていくための反省や評価のあり方、また、その後のより良い活動への再構築など、一言では言いあらわすことのできない変革の日々を重ねられた様子がよく分かりました。

いろいろ学ばせていただいたことをもとに、私自身はいま、居住地が抱える課題を考えながら、より良い地域づくりに少しでも取り組んでいきたいと思っています。

### グループ活動「ひょうたんから KO-MA」から学んだこと

グループが活動地域に選ばれた近江八幡市高学区での活動は、今まで経験したことのない新鮮なことばかりでした。ずっと町に住んでいる私にとって、高学区では、緑や水の美しい自然や、お互いに普段からのつきあいの濃さがにじみ出る人間関係、特に、私の関心の大きい、子どもたちの行動の純朴さには心温まるものを感じました。

イベントの開催には、地域の方々の陰になり日なたになって献身的に進められていたことが印象に残ります。特に、学区での各種団体のリーダー的な方々が率先してあたられていて、地域での仲間の輪のようなものできあがっているのには感心しました。多くの町ではもうとりづらくなっているコミュニケーションが自然体として存在しているのにはうらやましく思いました。

これからの「KO-MA」のますますの発展を祈念しています。

氏名	やまもとしょうざぶろう 山本尚三郎
所属グループ	絆：世代 & 地域（子育て応援団）
在住市町	草津市



### 今後取り組みたい活動とその思い

私は一人一人の声が大切にされる地域プロデュースであってほしいです。（その一つ）行政のインフラ整備について、住民が企画・設計からチェックでき、その声が必ず取り上げていける利用者本意のまちづくりの活動者として、啓発、広報をやります。（守山市みらい政策課）

・自分の経験を活かし、病院から地域に復帰される方へピュアマネジメント（脊髄損傷などによるチェアウォーカー）を県立リハビリセンターなどの行政とも一緒になりカウンセリング活動にも取り組んでいきたいと思っています。（滋賀県健康推進課）

### 卒塾にあたって

この2年間に、あまり活動に参加できなかったことが残念に思います。

しかしながら、卒塾してから、グループの仲間の指導の元、自分の特徴を活かした活動をしていきたいと考えています。

## 第二部

# 2年間のあゆみ

塾活動2年間の概要を時系列で追ってみました。  
見てください。

2005年



▲入塾式 日高塾長の講義



▲伊吹合宿にて



▲高島市針江の漁師三五郎さん

■6月12日(日) 入塾式/県民交流センター  
 ・記念公開講義「育つか、育てるか」 講師：日高敏隆塾長

■6月25日(土) 講義/彦根勤労福祉会館  
 ・講義「地域プロデューサーの時代」 講師：北村裕明 運営委員長  
 ・講義「NPOぽぼハウスの歩み」 講師：山脇玲子さん(NPO法人NPOぽぼハウス代表)  
 ・ワークショップ「コミュニケーション」 講師：初田元明さん(人権啓発トレーナー)

■7月30日(土) 講義/米原市醒井・醒井公民館・水の宿駅  
 ・講義「新しいまちづくりの目指すもの」 講師：岡崎昌之 運営委員  
 ・事例紹介「地蔵川とハリヨを守る会」 講師：岡野錦司さん(地蔵川とハリヨを守る会代表)  
 ・講義「インターネット&MLミニ講座」 塾生会主催 講師：藤田知丈(7期生)

■8月27日(土)～28日(日) 合宿/伊吹フィールドワーク  
 ・伊吹フィールドワーク 講師 谷口隆一さん(米原市農村整備課長)  
 鳩代利博さん(伊吹町曲谷区)  
 堀江寛さん(ベンション伊吹代表)  
 高橋順之さん(伊吹文化資料館)

■9月15日(日) 八幡会企画講義「ML井戸端塾」スタート！  
 ・ワークショップ「課題発見と問題解決のイメージづくり」 講師：岸田眞代 運営委員  
 岸田眞代 運営委員  
 谷口康さん(有限会社伊吹・旬彩代表)

■9月17日(土) 講義/高島市新旭町周辺・高島地域地場産業振興センター  
 ・講義「環境先進国の地域プロデューサーから何を学ぶか」 講師：藤井絢子 運営委員  
 ・持続可能な地域づくりシンポジウム  
 ・新旭フィールドワーク 講師：藤井絢子 運営委員

■10月15日(土)～16日(日) 合宿/湖北フィールドワーク  
 ・長浜のまちづくりキーパーソン・卒塾生との意見交換会  
 ・講義「長浜のまちづくり～人がまちを動かす～」 講師：辻川作男 運営委員



▲NPO 法人NPOぽぼハウス 代表 山脇玲子さん



▲米原市醒井宿を流れる地蔵川。湧水を飲みました。



▲NPO 法人やまんばんの会 「やまんばんの森」



▲講義「臨地まちづくり学のススめ」  
織田直文教授

2006年



▲米原会企画ワークショップ  
「おらが自治会はこんなもん」



▲グループ研究活動テーマ検討  
「この指とまれ!」

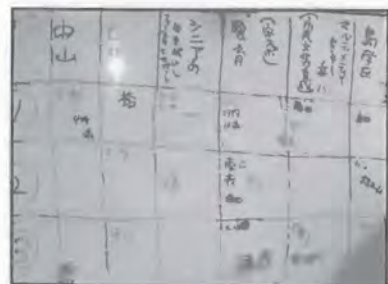
- 3月11日(土) 活動経過報告(6期生成果発表会) / 県民交流センター
  - ・「NPOの経営を考えるーお金と組織のマネジメントー」
- 2月18日(土) 大津会企画講義/ピアザ淡海県民交流センター
  - ・7期生全体としての到達目標/テーマの設定とグループ分けの方法
  - ・グループ分けスケジュール/グループ分けについての連絡・注意点
- 1月29日(日) グループ研究活動 よーいドン! / 粟東芸術文化会館さきから研修室 / Be-Cafe
  - ・「地域コミュニティの再生を目指してーおらが自治会はこんなもん!ー」
- 1月17日(火) 米原会企画ワークショップ/草津市立まちづくりセンター
  - 中溝さん、竹内さん(花しょうぶ通り商店街振興組合)
  - 安達昇さん(彦根商工会議所経営指導員)
  - 講師 井口貢さん(京都橋大教授)
- 12月18日(日) フィールドワーク/彦根市中心市街地商店街周辺
  - ・「商店街の取り組みと地域文化の創造とその担い手に求められること」
- 12月10日(土) 草津会企画講義/守山市民交流センター(さんさん守山)
  - ゲスト: 広美照美(1期生)、幡郁枝(2期生)、高藤富士夫(5期生)
  - ・「卒業生を招いて話すー未来塾の2年間で何を学ぶのかー」
- 11月3日(祝) 中間報告会/コラボしが21
  - ・公開講義「二臨地まちづくり学」のススめ 講師: 織田直文さん(京都橋大教授)
- 10月27日(木) 公開講義/草津市立まちづくりセンター



▲草津会企画講義 卒業生3名を  
招いて話しました



▲豪雪の中での、彦根商店街  
フィールドワーク



▲運命の(!?)グループ分け  
ホワイトボード

2006年



▲おむすび少年団「田植え」



▲曲谷のおじいさんの笑顔  
「みちひらきまつり」にて



▲「EVE気みちひらきまつり」  
江州音頭の輪ができました

曲谷LOHAS倶楽部

逢味おむすび隊

ひょうたんから KO-MA

絆：世代&地域



▲逢味おむすび隊  
「みちひらきまつり」に出店



▲おむすび少年団  
「田んぼのいきもの探し」



▲県民文化チャレンジ企画  
プレゼンテーション

5月14日 おむすび少年団「田植え体験教室」／守山市

6月11日 グループ研究活動サポート／県民交流センター

6月25日 おむすび少年団「田んぼのいきもの探し」／守山市

7月17日 県民文化活動チャレンジ企画公開プレゼン／大津市

8月5日 島学区夏祭り盆踊り参加／近江八幡市

8月17日 おむすび少年団「カカシ作りと流しそうめん」／守山市

8月19日～20日 EVE気みちひらきまつり／米原市

9月9日 おむすび少年団「稲刈り」／守山市



▲「権座」のキーパーソンと  
根木山社中。島学区夏祭りにて



▲おむすび少年団「カカシ作り」



▲「権座水郷コンサート」の準備  
田舟を運んで機械を運ぶ



▲「権座水郷コンサート」  
地元の子どもの演奏

2007年



▲「成果発表会」参加者全員が  
輪になり江州音頭を踊りました。

9月30日 中間報告会／コラボしが21

10月20日 島公民館食育講座／近江八幡市

10月22日 権座水郷クリーン大作戦／近江八幡市

11月3日 権座水郷コンサート／近江八幡市

11月4日 絆…世代&地域フォーラム／守山市

11月18日 おむすび少年団「収穫祭」／守山市

12月10日 みんなの居場所づくりワークショップ／守山市

1月20日 みんなの居場所づくり意見交換会／守山市

2月14日 桐原公民館食育講座／近江八幡市

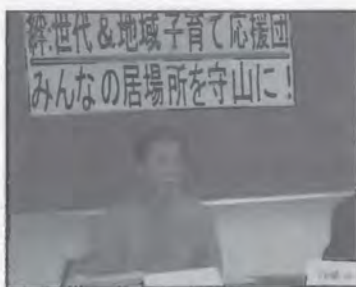
2月18日 みんなの居場所づくりフォーラム／近江八幡市

3月10日 みんなの居場所づくり意見交換会／守山市

3月11日 成果発表会・卒業式／コラボしが21



▲「みんなの居場所」について  
現場で意見交換



▲「みんなの居場所」を滋賀に  
100ヶ所つくろう!



▲みんなの居場所づくり  
河田珪子さんを招いて講演会

### 第三部

## グループ研究活動 の記録と成果

「地域プロデューサー」をめざし、「たすけあい、みつけあう、フィールドに入り現場で学ぶ」を合い言葉に取り組んできたグループ研究活動の記録と成果です。じっくりと読んでください。

まがたに

# 曲谷 LOHAS 倶楽部

テーマ theme

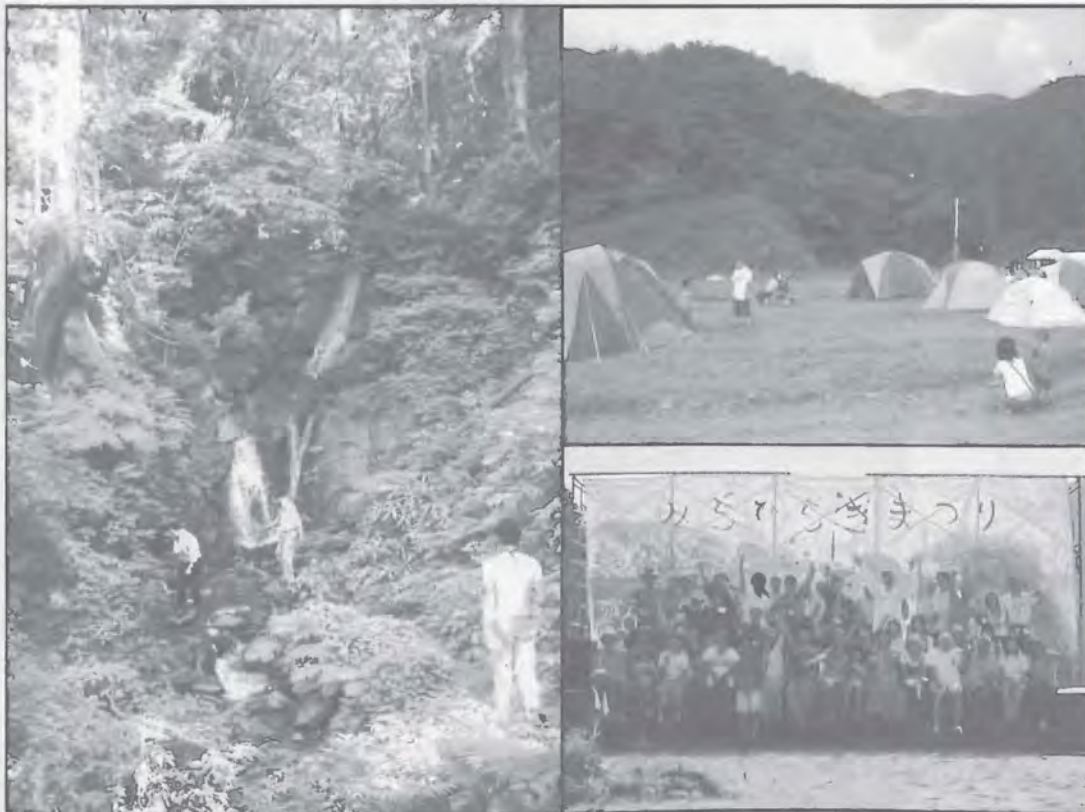
中山間地域の再生と自立 「EVE 氣みちひらきまつり」

グループ紹介 introduction

曲谷 LOHAS 倶楽部のミッションは、「中山間地域の再生と自立」である。高齢化・過疎化の進む米原市曲谷地区をフィールドに「心のかよう地域づくり」「地域資源のコーディネート」「都市との交流・情報発信」を進めるため、06年8月19日～20日、自然派音楽イベント「EVE 氣 みちひらきまつり」を開催した。これをきっかけに地域資源を活かしたエコツアーの企画・計画を進め、地域の再生と自立につなげていきたいと考えている。


メンバー member

居森敏夫 竹中雅哉 中森光彦 宮部道雄 森 俊彦



Magatani Lohas Club

# 曲谷LOHAS倶楽部の歩み

<p>構 成 員</p>	<p>宮部道雄 中森光彦 居森敏夫 森 俊彦 竹中雅哉</p>
<p>グループの ミッション</p>	<p>&lt;中山間地域とは&gt; 中山間地域とは、平野地域と山間地域の中間的な地域で、林野率が50%～80%、耕地は傾斜地が多い市町村である。全国3250の市町村の過半に及ぶ約1750市町村がこれに該当する。国土面積のおよそ70%になる。</p> <p>&lt;中山間地域の自立・再生・活性化&gt; その背景として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急速な少子高齢化の進展</li> <li>・都市と地方の格差の拡大、地方の中での格差の拡大</li> <li>・過疎化による活力の低下（若年層の流失）</li> <li>・高齢者中心社会におけるコミュニティの希薄化 （安心・安全のための防災システム・交通手段・高齢者福祉の必要性）</li> <li>・失われつつある「伝統文化」や「伝承文化」</li> <li>・担い手のない地場産業（農業・林業）</li> </ul>
<p>どうい うプロ セス で活動 したの か</p>	<p>(1) 地域の特 定</p> <p>米原市奥伊吹曲谷地区 H18年度世帯数34戸、人口82人、高齢化率45.1%</p> <p>&lt;地域の特性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉川上流域（五色の滝）</li> <li>・縄文中期の遺跡発掘（起し又）</li> <li>・豊臣秀吉との歴史的関わり（白山神社）</li> <li>・古くから花崗岩を使った石臼の生産・販売（工房跡）</li> <li>・伝統行事・文化の継承（結い）</li> <li>・広大な広葉樹の原生林・棚田</li> </ul> 

## (2) 地域へのアプローチ

### <キーパーソン>

- ・谷口隆一 米原市農村振興課長  
(姉川の源流を考える会のリーダーで本人も奥伊吹出身である。)
- ・行政の事業として国土交通省の「地域再生等担い手育成支援事業」平成17年度の全国9地域のひとつのモデル地域に選定され、春夏秋冬四季の農山村体験ツアーやイベントを企画・立案した実績がある。

## (3) 自立・再生のために何をするのか

(曲谷区のニーズを聞く)

- ・曲谷地区のコミュニティビジネスとして、百合園の建設・運営を行ってきた。  
(全戸参加：1口20,000円の出資金出して2年間は順調であったが、3年目の獣害により球根被害を受け頓挫した。)
- ・百合園の再活用に向けてのイベントを要望  
(思いとして夏の夜の野外音楽イベント)



## (4) 資金の調達

- ・県民文化活動チャレンジ企画への応募(採択30万円交付決定)
- ・(財)都市農山漁村交流活性化機構に公募する。  
「都市住民とグリーンツーリズムの行動を活性化させる新たな手法の調査研究の委託事業」への企画案の応募(全国で7団体に100万円、全国から23の応募→不採択)
- ・曲谷LOHAS倶楽部の趣旨に賛同するスポンサーからの支援

## (5) イベントへの協賛・協力

- ・後援 曲谷区、米原市、伊吹源流を考える会、B-WAVE
- ・協賛 ムーンサルト・プロジェクト、オフィスコスモス、髪やギャラリー・アンポポ、米原市教育委員会
- ・協力 未来塾7期生グループ(逢味おむすび隊)7期生メンバー  
地元音楽グループ(Rag-lag)、炎のパフォーマンス  
船川富太郎(江州音頭：民宿船作のご主人)

何を行ったのか

キャンペーンによるオーガニックな音楽イベント  
EVE気 みちひらきまつり



・開催日 2006年8月19日(土) 20日(日)

・開催場所 米原市奥伊吹曲谷百合園

・イベント内容

奥伊吹の自然を体感するキャンペーンによる音楽イベントを中心に  
エコツアー・ワークショップなども開催

・対象顧客

LOHASなライフスタイルを持つ京阪神・滋賀県下の自然志向派

・料金

2日間通しTICKET

(大人) 3,800円 (小人) 1,000円

・出演者

ジョゼ・ピニエイロ

宇々地

UOOMOO

neonii 山口尚己

KOW

RAG-LAG

船川富太郎



・曲谷区出店 スローフード屋台 山村BAR曲谷



ふりかえって  
学んだこと  
評価・反省

### (1) 学んだこと

- ・5月1日に米原市役所伊吹庁舎で谷口課長に初面談し、8月19日のイベント開催まで約3ヶ月半、実質4名のメンバーで実施にこぎつけられ、地域の期待に応えられた事に対する達成感と「やればできる」という自信を得ることが出来た。
- ・グループメンバー間のコミュニケーションのあり方・難しさを痛感した。  
(日ごとに進展する準備状況を共通認識することの困難さ)
- ・地域をプロデュースすることの難しさ大変さを体験した。
- ・中山間地域の抱える課題を実感した。
- ・企画・立案から実践までの時間的ゆとりの必要性  
(人的・物的・時間的限界)

### (2) 評価

#### 《地元の声》

- ・地域自立への新たな方向性が見えた。
- ・イベント開催により区民の気持ちが一つになれた。
- ・今年の開催を期待するとの声が高い。

#### 《グループ総評》

- ・時間的制約の中で意思統一ができないまま開催に至り、グループ活動としては総合的な観点から多くの反省点を残す結果となった。

### (3) 反省点

- ・企画段階において資金計画・経費見積り精度不足
- ・「キャンペーンによる音楽イベント」として対象顧客を絞り込んだことにより来場者不足となった。
- ・滋賀県下におけるパブリシティ(13媒体)は成功であったが、京阪神地区へのアプローチ・販促は不足であった。
- ・時間的にチケットの予約販売システムがとれなかった。
- ・開催後(事後)の地元との反省会を含めたコミュニケーションが不足した。
- ・音楽イベントに引き続いて、棚田保全活動やエコツアーの企画なども計画していたが、十分な取り組みが出来ず今後の課題となった。

#### (4) 中山間地域の再生ということについて

- ・音楽イベントやエコツアーなどにより都市住民に中山間地域の自然や伝統文化のすばらしさを知ってもらい、リピーターになってもらい、ひいては地域に住み着くような人が出てくればという考え方が出発点であった。
- ・滋賀県は2030年まで人口が増加し続ける数少ない県と言われているが、増えているのは大津市・草津市・守山市・栗東市などの湖南の都市部であり、農山村の人口は相変わらず減少し続けている。
- ・県内の人口流動も、農村部から都市部へ、湖北でも中山間地域から長浜市など交通・生活に便利な地域への移動が続いている。
- ・こうした大きな流れを変えるような手だて考えないといけないのではないか、外部から都市住民を入れ込んでくることだけでは根本的な解決にはならないのではないか?とも考えている。
- ・絶滅(廃村になること)が危惧される中山間地域集落が全国で2600以上あると言われている。
- ・何をすれば良いのか、さらに考え続けていきたい。



#### その後の活動

- ・米原市主催の市民活動啓発セミナーへパネラーとして参加
- ・地元(米原市)で、曲谷LOHAS倶楽部メンバーの募集活動
- ・エコツアーについては、秀吉の母をかくまった洞窟までのツアーとか峠越えのツアーなどを企画したい。
- ・音楽イベントについては、外発的発展から内発的発展へ発想の切り替えをしたい。外部から高額な謝礼の必要なプロのミュージシャンを呼んでくるのではなく、地元で常設のステージを設置し、夏の間、地元や県内のミュージシャンが自由に演奏出来るようなイベントを地元提案してはどうかと考えている。



EVE 氣

みちひらきまつり

奥伊吹 曲谷から、縄文未来へ。オーガニックな自分と出会う。

人と自然と音楽が、ひとつになれる場所。

06 8.19(SAT) ▶ 20(SUN)

12:00 OPEN (雨天決行) 場所: 滋賀県米原市曲谷 (百合園特別会場)

ACOUSTIC & ORGANIC LIVE

José Pinheiro・KOW・neomii・UooMoo・Wooji & Amachi・Rag-lag

EVENT & SHOP

TICKET 2日間通し/大人3,800円/小・中学生1,000円/幼児無料

主催: 曲谷 LOHAS 倶楽部「みちひらきまつり」実行委員会事務局

後援: 曲谷区/米原市/BB-WW E791/伊吹の源流を考える会

協賛: Moonsault project/有)office cosmos/夏やギャラリアンポポ

http://lohasclub.web.fc2.com/

EVE 氣 みちひらきまつり VOL.1

縄文の遺跡が出土する滋賀県・奥伊吹谷の曲谷集落。ここには21世紀の今も太古の森がひろがり、ケガれなき清流がながれ、大自然の懐で人々が素朴な暮らしを営んでいます。しかしそれらは今すぐ私たちが守らなければ、失われてしまうものなのです。過疎と孤立に直面する里山に、人と文化の新しい「運」をひらき、ありのままの自然をレスペクトしながら、里山に秘められた「未知」の可能性にむかって、新しい出会いと夢を紡ぎたい。第1回「EVE 氣 みちひらきまつり」は、そんな思いを持つ、すべての人のための祭りです。キャンプの自由な空気のおかげで、ピュアなサウンドを浴びて、ピュアな出会いと時間をすごしたい。この夏、EVE 氣の大自然とともに、あなたをお迎えします。

ACOUSTIC & ORGANIC LIVE

東と西のオーガニックなアーティストが大集合! 満天の星空のもと、自然とひとつになれるアコースティックなライブパフォーマンスをお楽しみください。



José Pinheiro ジョゼ・ピニエイロ

ブラジルからきた音楽の使者、吟遊詩人の世界から、アマゾンの自然、民衆文化までを歌い生きるカンタドール。 http://www.jose.harmoniaspace.com



KOW-Hajime

さまざまな音楽表現を呑み込み、一本のギター&声でマゼコネでゆく、求道のシンガーソングライター。 http://moonsault.net/kow/



neomii 山口尚己

パソケンの歌唱力と、自然と共振するバイブレーション。心を解放するエネルギーに満ちあふれるディーバ。 http://neomii.net/



UooMoo

鍵盤ハーモニカやジャンベなどを使い、エスニックで無国籍な新しい音楽をクリエイトするデュオ。 http://www.uoomoo.com



Wooji & Amachi 宇々地&天地

意識の奥深くに眠っているネイティブスピリットを呼び覚ます古代土笛、壺、太鼓のユニット。 http://www.wooji.jp



Rag-lag (ラグラグ)

jazz-bossaを織り交ぜたオリジナルpops。 http://rag-lag.com/

EVENT&SHOP

FOOD BOOTH (伊吹の自然とスローフード屋台)

郷土の伝統食やさまざまなスローフードが中心。大自然のなか「食」を通じて、奥伊吹の豊かさを感じていただけます。

ECOTOUR (自然を満喫するエコツアー)

縄文のものを感じていただけます。河川の遊流をめぐりながら、清流や森のすばらしさを体験。この地域を知り尽くしたガイドがお連れします。

WORKSHOP (伊吹の天然素材ワークショップ)

天然素材を活用して、実際の暮らしに役立つものや、子供たちが楽しく遊べるものを中心に、この地域の伝統技術なども盛り込みます。

SHOP BOOTH (自然派ショップ)

「スローライフ」。縄文の時間を流れる奥伊吹にふさわしいセレクションで、楽しく豊かなひと時をお楽しみいただけます。

●その他 地元の方々による、多彩なイベントが盛りだくさん!

※ワークショップ、エコツーリズムへのご参加には別途費用が必要となります。

PROGRAM

Table with 2 columns: 19日(土) and 20日(日). Rows include times (12:00, 16:00, 23:00, 10:00, 11:00, 15:00) and activities (ゲートオープン, ライブ開始, 終了, エコツーリズムワークショップ, ライブ開始, オープニングセッション, フィナーレ).

※プログラムは、変更になる場合があります。詳しくはホームページで随時更新しております。

●スペシャルゲストに、奥伊吹に古くから伝わる民謡を歌うシークレット歌手が特別出演! さらに、ファイヤーパフォーマンスチーム「大狐(TAIKO)」による、雷と炎のコラボイベント!

チケット・駐車場・キャンプサイトのお申し込み先・お問合せ

曲谷LOHAS倶楽部「みちひらきまつり」実行委員会事務局
http://lohasclub.web.fc2.com/
E-MAIL: lohasclub@pets-mail.com
TEL: 090-4494-3748 FAX: 0749-57-0728

●お名前●ご住所●電話番号●E-MAILアドレス●チケット枚数●駐車台数
●キャンプの有無●合計金額)をご記入のうえ、E-MAILかファックス、またはお電話で事務局までお申し込みいただき、郵便振込みでご入金ください。
恐れ入りますが手数料はご負担ください。

※チケット、駐車場、キャンプサイトは事前申し込みが必要。チケット申し込みと同様に駐車場、キャンプサイトのご利用の有無と必要数をお知らせください。(例、駐車場1台、キャンプサイトテント1張り)スペースの関係上、事前申し込みのない場合は、ご利用をお断りする場合がございますので、ご了承ください。
※キャンプをご希望でない方は、宿泊施設として夜宿やログジモをご利用ください。詳しくはホームページにて。
※チケット販売枚数、駐車場、キャンプサイトには限りがあります。お早目のご予約をお願いします。

チケット2日間通し: 大人3,800円/小・中学生1,000円/幼児無料
駐車場料金: 1,000円 (2日間)
キャンプサイトご利用料金: 1,000円 (テント1張り)

郵便振替口座: 00910-9-77246
口座名義: 曲谷LOHAS倶楽部「みちひらきまつり」実行委員会事務局
振替入金の控えを必ずご持参ください。当日受付でチケットと交換いたします。

会場へのアクセス



会場へのアクセス
●米原インターからが便利です。国道21号を経て国道40号を北へ約30分。寺越トンネルを抜け、道を渡り、すぐ右折。
●公共交通をご利用の方は、路線バスをご利用ください。お問合せは、近江鉄道バス・湖国バス(後) 奥谷営業所 TEL.0749-64-1224
●会場までの送迎バスは、お断りさせていただきます。
●会場での宿泊は、キャンプサイト、及び駐車場をご利用いただけます。ご予約のない当日のテント及びキャンプ用品の貸し出しは行いませんので、各自ご持参ください。
●キャンプサイトでの地震への備えはご自身でお願いします。
●夏といはい奥伊吹の湿度は高く、朝夕は冷え込みます。防寒のご用意をお願いします。
●夜間は蚊・ブヨ等が発生します。防虫スプレー等をご用意ください。
●尚、収益金の一部は奥伊吹地域の里山づくりや環境保全活動への支援金として還元いたします。

# おうみ 逢味おむすび隊

## テーマ theme

お米づくりと共食による食育プログラム 「おむすび少年団」と「五感食育講座」

## グループ紹介 introduction

生活習慣の若年齢化、アレルギー体質、児童の基礎体力の低下等、これらの現象は私等の身体や精神の根源である「食」と密接な関係があるはずです。私達「逢味(おうみ)おむすび隊」は、守山市内のスポ少をモデルとして、「共食」を中心とした五感で体感できる食育プログラムを関連する様々な人々を巻き込み実践しました。また、近江八幡市内島学区・桐原学区で、乳幼児とその親子を対象として、五感を使った「食育講座」を開催。若い保護者層に対して食の関心を高めてもらう機会を持つこともできました。

## メンバー member

伊藤加代子	井上淳子	河村好子	坂上則子
塩谷寿朗	林憲一郎	藤田知丈	溝口厚雄



Ohmi Omusubi Tai

## 逢味おむすび隊 活動記録

月日	おむすび少年団の活動	食育講座企画	講座、その他の活動
平成 18 年 2月 22 日	生産者、JA おうみ富士と打ち合わせ (JA おうみ富士)		
3月 18 日			講演「食べることは生きること」 佐藤成子氏 (野洲文化ホール)
3月 22 日	JA おうみ富士との打ち合わせ		
4月 2 日	グループ打ち合わせ (米原市)		
4月 22 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		講演「丈夫なこどもをつくる基本食」 幕内秀夫氏講演会 (守山市民ホール)
4月 29 日	生産者と田植えについて打ち合わせ (河西会館)		「浜大津朝市」視察
5月 8 日	グループ打ち合わせ (都賀山)		
5月 14 日	田植え 生産者さんの農の講座① (河西会館)		
6月 4 日	グループ打ち合わせ (さんさん守山)		
6月 11 日			第二回 Open Sesame オーガニック講習会 安部 司氏「食品の裏側」(県民交流センター)
6月 15 日			「キッチン・キス」訪問
6月 22 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
6月 25 日	守山市スポーツ少年団育成会講師派遣 田んぼのいきもの探し 生産者さんの農の講座②		
6月 28 日			滋賀県農政水産部環境こだわり農業課訪問
7月 5 日			近畿農政局滋賀県農政事務所訪問
7月 6 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
7月 10 日			滋賀大学堀越教授訪問
7月 23 日	生産者さんの農の講座③ グループ打ち合わせ		
8月 4 日	グループ打ち合わせ (米原)		
8月 17 日	カカシ作り、流しそうめん (小津幼稚園)		
8月 19 日 20 日			「みちひらきまつり」出店
9月 1 日		島幼稚園ヒアリング	
9月 8 日		講師依頼	
9月 9 日	稲刈り		
9月 14 日		講師との打ち合わせ	
9月 21 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
9月 22 日		講師との打ち合わせ	
9月 30 日	中間発表会		
10月 17 日		島幼稚園事前訪問	
10月 20 日		島公民館食育講座開催 (近江八幡市 島幼稚園)	
10月 26 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
11月 4 日			守山屋台村パネル展示 (~ 11 日)
11月 17 日	収穫祭事前準備		
11月 18 日	収穫祭 (小津公民館) 午後より少年団父兄との話し合い		
12月 4 日			鹿深家庭教育向上セミナー⑤ 「滋賀の伝統食」講師 堀越昌子氏
12月 20 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
1月 10 日		桐原公民館食育講座 講師との打ち合わせ	
1月 30 日			滋賀県立大学主催「食の講座」 (びわ湖ホール)
2月 14 日		桐原公民館食育講座開催 (近江八幡市 桐原会館)	
2月 21 日	グループ打ち合わせ (近江八幡 MC)		
2月 24 日			川づくりフォーラムパネル展示 びわこ豊穡の郷主催
3月 11 日	成果発表、卒塾式		

逢味  
おむすび隊

## グループ概要

■グループ名  
**逢味(おうみ)おむすび隊**

■メンバー

伊藤 加代子	塩谷 寿朗
井上 淳子	林 憲一郎
河村 好子	藤田 知丈
坂上 則子	溝口 厚雄

1

逢味  
おむすび隊

## 研究の概要

■研究の背景・目的

- 日本の「食」と子ども達の「健康」が危ない！という共通認識。

↓

- 「子ども」と「保護者」をターゲットとした、実現可能な「食育プログラム」を考案・実践する。
- そのプログラムを、地域のなかで主体的に継続・発展・拡散できるしくみを確立する。

2

逢味  
おむすび隊

## 研究活動の到達目標

- ①「お米づくり」と「共食」を中心とした食育プログラムを実践する。
- ②参加者・協力者から高い満足度を得て、次年度以降への活動継続の道筋をつける。
- ③食を取り巻く地域の諸問題について、参加者全員から一定の理解を得る。
- ④学校給食の課題をさぐる。
- ⑤食と健康について、「子どもと保護者が共に学ぶ食育」を実践する。

3

逢味  
おむすび隊

## 活動報告①

- 守山市内のスポーツ少年団の子ども達(小学生)とその保護者を対象に、**田んぼ**をフィールドとした、半年間(全五回)にわたる食育プログラム「**おむすび少年団**」を実践した。

- 第1回 『田植えをしよう！』(5/14)
- 第2回 『田んぼの生き物を探そう！』(6/25)
- 第3回 『案山子づくりをしよう！』(8/17)
- 第4回 『稲刈りをしよう！』(9/9)
- 最終回 『収穫祭！』(11/18)

4

### おむすび少年団の活動の様子(1/2)



5/14  
五感で田んぼを感じよう！  
田植え＆農家伝統食体験



6/25  
田んぼや川に親しもう！  
田んぼの生き物探し＆河川清掃



8/17  
野洲川の竹を活用！流しそらめん

### おむすび少年団の活動の様子(2/2)



8/17  
昔人の知恵を体験！カカシづくり



9/9  
気持ちよい汗を！稲刈り



11/18  
自然の恵みに感謝！収穫祭

## 活動報告②

- ・ 近江八幡市内の公民館が定期開催する子育て講座に参加している幼児とその保護者を対象に、五感で食に親しみ、食と健康への理解を深めてもらう「五感食育講座」を実践した。

- 島幼稚園 (10/20)
- 桐原会館 (2/14)

7

## 五感食育講座の様子

島幼稚園



桐原会館



## 活動報告③

- ・ 食に関連する講演等への参加、専門家・専門機関の訪問、各種イベントでの情報発信などを行い、メンバーで情報を共有した。

- 講演会 (佐藤成子氏、幕内秀夫氏、安部司氏など)
- 訪問 (滋賀大堀越教授、県環境こだわり農業課、キッチン・キスなど)
- 情報発信 (スポ少育英会で講演&発表、みちひらきまつり出店、守山屋台村パネル展示、川づくりフォーラムパネル展示など)

9

## 訪問の様子

堀越先生に「てのひら栄養学」を教わる



メンバー井上が地元で立ち上げた共食ボランティア「キッチン・キス」を見学



## 活動成果の自己評価

### 到達目標①

「お米づくり」と「共食」を中心とした5回程度の食育プログラムを実践する。



達成率 **100%**!!

11

## 活動プロセスで得たもの①

### ・目的に応じた参加者の集め方

- メンバー塩谷が監督をつとめるスポ少「小津イレブンフイーバーズ」にご協力いただいた。
- 一般公募ではなく、既存の組織と組むことで、当初からの狙いであった「食に関心のない若い親へメッセージを伝える場」を創ることができた。
- 広報する手間が省けた。
- スポ少は試合スケジュールがたいへん忙しく、日程調整にたいへん苦勞した。

12

## 活動プロセスで得たもの②

### ・身の丈にあった活動資金の集め方

- 「JAおのみ富士」さんから活動経費の一部等を補助していただいた。
- 「こだわり滋賀ネットワーク」の助成金を獲得。(約9万円)
- これらの団体からは、単にお金をもらえただけでなく、活動支援やアドバイスもいろいろしてもらえた。
- 食育を目的としている活動なのに、食材費が補助対象外となる補助金が多いので注意!!

13

## 活動プロセスで得たもの③

### ・食育プログラムづくり

- 郷土料理の専門家(井上)、ピオーブ管理士(藤田)、カカシづくり経験者(溝口)など、メンバーの特技を活かした多彩なプログラムを組んだ。
- ...が、「実施する」のが精一杯で、子ども達や保護者に「確実にメッセージを伝える」余裕がなかった。
- 「お米づくりと共食」にこだわった第一回(田植え)が、結局一番好評だった。  
シンプルにこのスタイルを貫くべきだったかも。

14

## 活動プロセスで得たもの④

### ・協力者との関係づくり

- 生産者谷口さんとのコミュニケーション不足により、活動内容などで認識の食い違いが生じてしまった。
- プログラムの作成段階から、協力者と一緒に、時間をかけて取り組むべきであった。

### ・参加者との関係づくり

- スポ少の子ども達や保護者とじっくり交流する機会がほとんどなかったのが残念。
- 準備期間が短すぎた。もっとしっかり交流を深めてからプログラムをスタートさせるのが望ましい。

15

<http://omusubitai.exblog.jp/>



## 活動成果の自己評価

### 到達目標②

参加者側・プログラム提供者側の双方から高い満足度を得て、次年度以降への活動継続の道筋をつける。



達成率 **70%**!!

17

## 活動プロセスのポイント④

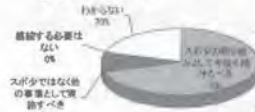
### ・参加者の満足度

- 「食に関心がなかった保護者」「スポ少=サッカーだけという間違った解釈をしていた保護者」も含めて、高い関心と満足度を得られたことが大きい。

Q.子ども達は、「おむすび少年団」の活動に満足していたと思いますか？



Q.今回のような食育活動を、スポ少の定期的な活動の一環として継続的に実施していくことをどう思いますか？



18

## 活動プロセスのポイント⑤

### ・活動継続への道筋

- 今年度と同程度のプログラムを、同じメンバーで次年度も継続するのは困難。
- そこで、今回の実践で得たノウハウを集約したガイドブックを作成・配布して、それぞれの地域や団体での今後の取り組みに役立ててもらいたい。
- スポ少だけでなく、ボーイスカウトなど他の組織体にも活動の輪を広げていきたい。

19

<http://omusubitai.exblog.jp/>



## 活動成果の自己評価

### 到達目標③

食を取り巻く地域の諸問題について、参加者全員から一定の理解を得る。



達成率 **85%!!**

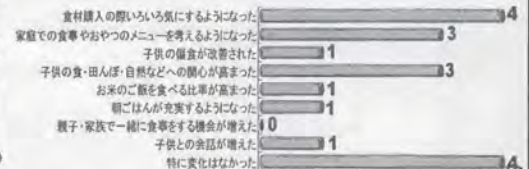
21

## 活動プロセスのポイント⑥

### ・「食べる」ことが一番伝わる！

- 田植え後にみんな一緒に外で昼ごはんを食べた際、「子どもが、普段絶対食べないものをおいしそうに食べた！」「にわか汁など生活の知恵におどろいた！」ことなどが、結局一番印象に残ったようだ。

Q. 半年前までと比べて、ご家庭での食生活・食習慣に少しでも変化はありましたか？ (複数回答可)



22

## 活動成果の自己評価

### 到達目標④

学校給食の課題をさぐる。



達成率 **20%!!**

23

## 活動プロセスのポイント⑦

### ・他の活動との連携・位置づけ

- 講演会や本などを通じ、メンバーの給食に関する問題意識は非常に高まった。
- が、実際に食育活動に取り組む学校を訪問するなど、アイデアは出たものの実践には至らなかった。
- 五感食育講座などを通じ、就学前の子の保護者に意識づけをすることはできた。彼らがのちのち給食の問題に気づいて行動してくれたら嬉しい。

24

## 活動成果の自己評価

### 到達目標⑤

“食と健康”について、子ども達と保護者が共に学ぶ「食育」を実践する。



達成率 **80%!!**

25

## 活動プロセスのポイント⑧

### ・人脈で得たきっかけを行動力で活かす

- 「おむすび隊」の存在が、人づてでたまたま島公民館職員の耳に入り、食育講座の依頼が舞い込んだ。
- 「受けて立ちたい！」というメンバー坂上・伊藤の意志と行動力から、オーガニックレストラン「オープン・セサミ」の坪山さんとつながり、多大なご協力を得て「五感食育講座」を実現できた。
- 「五感食育講座」においても、広報で苦勞することなく、「食に関心のなかった若い親」が集まる場で、効果的にメッセージを伝えることができた。

26

## 活動プロセスのポイント⑨

### (活動全体を通じて)

#### ・地域プロデューサーとインターネット

- メーリングリスト、ブログ、mixiがなければ、今回の成果は得られなかっただろう。
- 結果的に、日常的なメール環境がないメンバーとは、最後まで十分な情報共有、意見交換ができなかった。
- これからの地域プロデューサーにはインターネットが不可欠!!

27

## 新年度(卒塾後)の活動計画

- ・ 現在のメンバーにとらわれず、広く門戸を開き、新しい形で、「達味おむすび隊」は継続する。
- ・ 月1回程度、定期的に集まる場を設ける。
- ・ 当面は、やり残した「ガイドブック」づくり活動を中心に、お互いのスキルを高めあう。
- ・ 「五感食育講座」は、今後も要請があればいつでも出前講座ができるよう体制を整えておく。
- ・ ブログ等での情報発信も継続する。

28

# 五感で味わう食のおはなし

## もっと食を楽しもう！

うち  
お家の方へ！！



子どもの毎日の食事やおやつに、悩みや疑問はつきもの。  
子ども達と一緒に、『食のおはなし』を聞きませんか？

- ◎親子で気軽に楽しめる！「五感食育ゲーム」
- ◎「食のおはなし」（おやつのお話から添加物まで、子育てに役立つ情報満載！質問タイムあり）

出前講座やります！  
お気軽にご相談  
ください！

### 坪山規代さん（講師）プロフィール

愛知県名古屋市で生まれる。

小さい頃から有機、低農薬、オーガニック食品を食  
べて育つ。

1992年某電気メーカー就職のため滋賀に異動。

1999年7月退職。

2001年6月オープンセサミ（膳所駅前）開業。  
レストラン経営の傍ら、オーガニックライフ講習会  
や料理教室、中国茶会などを開催。

現在、自らも子育て真っ最中。

### おうみ 逢味おむすび隊（企画・運営）プロフィール

淡海ネットワークセンター主催の『おうみ未来塾\*』7期生・  
食育研究グループ。

昨年、守山市内で活動するスポーツ少年団とその保護者を対象  
に、「お米づくり」と「共食」を中心とした五感で体感できる  
食育プログラムを、関連する様々な人々を巻き込みながら実践  
した。

\*『おうみ未来塾』…地域課題に取り組む、魅力ある新しい市民リ  
ーダー「地域プロデューサー」の養成塾。

こ ま

# ひょうたんから KO-MA

## テーマ theme

「農をベースとした持続可能な地域再生のための人が集まる場づくり」  
座と市づくりプロジェクト「権座水郷コンサート」とほんがら松明復活映像化プロジェクト

## グループ紹介 introduction

7期生の個性派集団「ひょうたんから KO-MA」は、『農をベースとした持続可能な地域再生のための人が集まる場づくり』をミッションに掲げ、世帯数約 600 戸・人口約 2100 人で典型的な農村集落である近江八幡市島学区をフィールドに取り組みを進めている。

2006 年 11 月には、地元住民や行政等とともに実行委員会を組織して、水郷の飛び地の田んぼ「権座」を会場に「権座水郷コンサート」を開催し、メディア広報を駆使して約 800 人を集客。多数の地元企業から協賛金を集めたり、住民自らがバザールで出展したり艦こぎ体験を指導するなど、優れた地域資源の価値を再創造して地域活性化に結びつけるきっかけを作った。今後、いかに継続させるかが課題。

また、地元島町の祭にかつて奉納されていた「ほんがら松明」の 50 数年ぶりの復活を題材にしたドキュメンタリー映像づくりでは、当時の記憶を頼りに作業する老人たちとプロの映像作家が真摯に向き合うことで、これまで世代を超えて伝えられることのなかった地域共同体を守り継いできた価値観を掘り起こすとともに、若手の担い手不足に悩む祭の運営に、未来へつなげる新しい潮流を興すことができた。2007 年内には映像作品を完成させる予定。

## メンバー member

大河原佳子 富永清美 中川豊一 根木山恒平  
橋 俊明 藤田知丈 森田紀嗣



Hyotan Kara KO-MA

## 【ひょうたんから KO-MA グループ研究活動の経緯 (06/2~07/3)】

2月	7期生・塾生会にて4グループ化。「コミュニティビジネス」「公の施設における指定管理者制度(市民文化力の育成)」「近江八幡・島学区/地域再生」「栗東・下戸山/朝市」の4つのテーマにばらばらに賛同した者が集い、個別のテーマにとらわれないグループ「ひょうたんから駒(仮)」として発足。	
3月	6期生成果報告会にて、「人が集まる場“市(仮)”による地域再生」とした活動概要発表。	
4月	メンバーが有するフィールドに対して、ヒアリングを行う。 (4/5 栗東・下戸山自治会、4/10 近江八幡・エコ村百菜劇場、4/25 近江八幡・島学区認定農業者&文化協会専門理事、4/29 野洲・大篠原森林管理組合)	
5月	ヒアリングで得たデータ、要因をもとに取組むべき研究活動計画を議論。結果、「『農』」をベースにした持続可能な地域再生のための人が集まる場づくり~近江八幡・島学区での「座と市」づくり~として、 ■しま水郷田楽 ■本穀松明の復活&ドキュメンタリー映像制作 を柱にした計画を決定。	
	しま水郷田楽	
	松明復活&ドキュメンタリー制作	
6月	<input type="checkbox"/> 近江八幡市文化振興課より「権座」におけるコンサートの企画打診。 <input type="checkbox"/> 近江八幡市文化振興課と協議。 <input type="checkbox"/> KO-MAとして、「県民文化活動チャレンジ企画補助」に申請することを決定。	<input type="checkbox"/> 藤井運営委員などのご協力により、松明復活に必要な菜種殻を愛東で刈り取らせてもらえることに。 <input type="checkbox"/> 6/10 老人クラブが愛東で菜種刈りを実施。このときから、映像作家・長岡野亜とともにドキュメンタリー映像の撮影開始。
7月	<input type="checkbox"/> 「権座」を視察。「権座」地権者・大西氏と会合。アーティスト(中野順哉)からヒアリング。 <input type="checkbox"/> 県民文化活動チャレンジ企画補助二次審査(公開プレゼン・7/17) <input type="checkbox"/> PR映像(DVD)の作成。	<input type="checkbox"/> 農水省「農村景観・自然環境保全再生パイロット事業」に応募。 <input type="checkbox"/> 7/14 老人の家を一軒一軒訪ねる取材活動開始。 <input type="checkbox"/> 7/28 菜種もみ作業を撮影。
8月	<input type="checkbox"/> 島学区夏祭りにて、PR映像上映 & 盆通りに参加。 <input type="checkbox"/> 県民文化活動チャレンジ企画補助内定 <input type="checkbox"/> KO-MAとして企画案協議。 <input type="checkbox"/> 文化振興課&地権者へ企画提案。 →実行委員会の発足にむけて準備	<input type="checkbox"/> 8/26 菜の花学会・楽会にてKO-MAの取り組みを発表。 <input type="checkbox"/> 8/27 菜種の種まき作業を撮影。 <input type="checkbox"/> 9/18 老人クラブ慰霊祭を撮影。 <input type="checkbox"/> 9/20 老人たちへの個別インタビュー撮影開始。 <input type="checkbox"/> 9/28 稲刈(ワラ確保用)作業、菜種間引き作業を撮影。 <input type="checkbox"/> 農村景観・自然環境保全再生パイロット事業採択決定。
9月	<input type="checkbox"/> 9/5 広報宣伝会議 <input type="checkbox"/> 9/15 第1回実行委員会 顔合わせ&企画概要説明 <input type="checkbox"/> 広報宣伝スタート <input type="checkbox"/> 9/29 第2回実行委員会 役割分担 <input type="checkbox"/> 会場下見。オヤジ連へPR。	<input type="checkbox"/> 10/7 百々神社秋の祭礼を撮影。 <input type="checkbox"/> 10/12 老人クラブ竹さきり作業を撮影。 <input type="checkbox"/> 10/20 天皇に献上するムベの収穫作業を撮影。 <input type="checkbox"/> 11/19 若宮神社清掃→新嘗祭を撮影。 <input type="checkbox"/> 11/25 菜種植え替え作業を撮影。 <input type="checkbox"/> アサヒ・アート・フェスティバル2007に応募。
10月	<input type="checkbox"/> 10/3 ウェブサイト開設 <a href="http://gonza.xii.jp/">http://gonza.xii.jp/</a> <input type="checkbox"/> 10/2 出演者=小学校で指導 <input type="checkbox"/> 10/4 演出家=市長インタビュー <input type="checkbox"/> 10/6 第3回実行委員会 入場者増加促進案、イベント協議 <input type="checkbox"/> 10/10 出演者=幼稚園で指導 <input type="checkbox"/> 10/14 会場準備作業 <input type="checkbox"/> 中旬 協賛金集めスタート <input type="checkbox"/> 10/18 第4回実行委員会 残りの作業確認 <input type="checkbox"/> 10/22 プレ企画「権座クリーン大作戦」島学区外部からのボランティア参加を得て、清掃活動を実施。(兼会場整備) <input type="checkbox"/> 10/31 第5回実行委員会 最終作業確認、当日運営体制確認	<input type="checkbox"/> 12/11 アサヒ・アート・フェスティバル2007東京に向いてプレゼン。→内定 <input type="checkbox"/> 12/16 老人クラブ総会にて、この映像プロジェクトを老人全員に改めて説明。意識のずれを修正した。 <input type="checkbox"/> 12/18 ゲートボールクラブ忘年会撮影。さらに仲良く。 <input type="checkbox"/> 12/23 神社しめ縄づくり撮影。 <input type="checkbox"/> 12/31 大晦日撮影。 <input type="checkbox"/> 1/2 権現山初詣を撮影。 <input type="checkbox"/> 1/11 KOMA ミーティングでスケジュール・役割確認。 <input type="checkbox"/> シナリオ検討作業を詰める。 <input type="checkbox"/> 県立大で学生ボランティア募集。協力者1名ゲット。
11月	<input type="checkbox"/> 11/2 会場準備作業 <input type="checkbox"/> 11/3 本番当日 快晴。来場者:約800名。 <input type="checkbox"/> 11/4 会場片付け&打上げ <input type="checkbox"/> 報告blog開設 <a href="http://gonza.shiga-saku.net/">http://gonza.shiga-saku.net/</a>	<input type="checkbox"/> 2/7 老人クラブ役員会で予告編を上映。 <input type="checkbox"/> 2/11・12 アサヒ・アート・フェスティバル2007 ネットワーク会議@東京浅草に参加。 <input type="checkbox"/> 2/16・17 日待ち・獅子舞撮影。 <input type="checkbox"/> 2/24 島町の若者有志に予告編を見せる。若者を中心に祭実行委員を組織することを決意。 <input type="checkbox"/> 2/28 松明「輪づくり」作業撮影。若者も参加。 <input type="checkbox"/> 「中学生映画制作ワークショップ」を具体化するため、教育委員会の協力を取り付ける。
12月	<input type="checkbox"/> アンケート結果をとりまとめ。	<input type="checkbox"/> 3/2 校長会にて、市内の各公立中学校に「中学生映画制作ワークショップ」への協力を依頼。 <input type="checkbox"/> 近江兄弟社に同協力依頼。 <input type="checkbox"/> 3/9 若者たちの自主会合を撮影。
1月	<input type="checkbox"/> 各自、権座の反省文を作成・提出。	
2月	<input type="checkbox"/> KOMAとして権座水郷コンサート反省会。	
3月	<input type="checkbox"/> 成果報告会資料準備。	
	…新年度の「座と市」へ向け、そろそろ実行委員会を召集?	… 4/21のほんがら松明点火へ向け、プロジェクトはいよいよ佳境へ。まだまだ続きます!!

# 【しま水郷田楽（座と市づくり）活動フロー図】



# 『しま水郷田楽』（座と市づくりプロジェクト）概要

## ●実施事業：

「座と市」づくりプロジェクト2006 権座水郷コンサート Gonza Suigo Concert 2006

ー重要文化的景観「近江八幡の水郷」に響く音楽とともに、島学区の人びとが育んできた景観、農・漁文化を体感し、楽しむ場。ー

## ●実施にいたる経緯：

グループ研究活動計画では、ひと・もの・こと・かねが集まりにぎわう場としての「座と市づくり」の一環として、『しま水郷田楽』と題した事業を2007年に実施することを目標にかかげていたが、近江八幡市文化振興課による施策案・重要文化的景観「近江八幡の水郷」エリアにおけるコンサート企画に出会い、急速、本事業に参画することとした。当初は、地域プロデューサー的視点（見渡す、つなぐ、調達する、広げる）から補佐的関与を想定していたが、KO-MAとして平成18年度県民文化活動チャレンジ企画補助金に申請することになり、その後、グループ内協議、文化振興課および「権座」地権者（地元キイパーソン）との協議を経て、結果的に、実施主体のひとつとして参画した。

本事業への参画により、当初2006年内の到達目標であった「地元での実行委員会の発足」を達成できた。なお、実行委員は名誉職ではなく、あくまでも実働部隊として、地元住民有志、協力者、KO-MAメンバーから成る。

## ●実施主体：権座水郷コンサート実行委員会

実行委員21名。うち、島学区住民11名、ひょうたんからKO-MA7名。

委員長/企画班/広報宣伝班/会場設営班/渉外担当/出演者担当/指導担当/ウェブ担当/事務局担当 他

## ●日時・会場：

2006年11月3日（金・祝）11:00～16:00 於）西の湖に浮かぶ島状の飛び地「権座」（滋賀県近江八幡市白王町字権座）

※来場者から開催協力金500円（中学生以上）をいただきました。

## ●内容：

メイン	□コンサート（三部構成）	
	総合演出：中野順哉 出演：ターフェル・クインテット、旭堂南左衛門・南青、島小学校児童、島幼稚園園児	
同時開催	□物産バザール（出店者：島公民館有志、島少女パレー、白王町営農組合、ヨッシーとその仲間たち、陸友会）	
	□体感ワークショップ（運営：NPO法人五環生活 企画調整：ひょうたんからKO-MA）	
	田舟の船ごぎ体験（指導：白王町営農組合）	西の湖の漁体験（指導：奥田修三）
	農文化体験（指導：白王町営農組合）	ヨシ文化体験（指導：西川嘉廣ほか）
開催	□五感ウォークラリー（運営：NPO法人五環生活）	
	□水郷めぐり観光特別便（運営：島真珠水郷観光船部、まるやま水郷めぐり観光）	
	□ソーラー和船デモ運航（運営：協同組合HIP滋賀）	
	□船上見学会日記コンクール表彰式（実施：全国文化的景観地区連絡協議会近江八幡大会実行委員ほか）	
プレ企	□権座水郷クリーン大作戦 2006年10月22日（日）9:00～12:00 @権座 主催：ひょうたんからKO-MA	

## ●来場者：約800名（開催協力金720口。電話・メール・ウェブからの一般申込者153名）

## ●広報宣伝実績：

□チラシ1万枚＝市内公共施設、店舗、協力団体、個人	□ポスター60枚＝市内公共施設、各所
□入場整理券2千枚＝実行委員、協力団体、協賛者	□近江八幡市広報誌（10/15号・11/1号）掲載
□プレスリリース＝実行委員会独自リスト、近江八幡市記者クラブ、県政記者クラブ・東近江地域振興局記者クラブ	
□新聞＝事前記事7紙（朝日・中日・京都・毎日・産経・AIAI 滋賀・滋賀報知） 事後記事3紙（中日・毎日・京都）	
□TV＝BBC「びびっとサポーター」、近江八幡ケーブルネットワーク（HOT!TV）「特集企画」、NHK「もっともっと関西」ソーラー和船	
□ラジオ＝KBS京都にて電話出演（生放送）	
□インターネット	
公式ウェブサイト（ <a href="http://gonza.xii.jp/">http://gonza.xii.jp/</a> ） 10/3～11/3の期間でサイト訪問数約3,000件。	
アートネットしが登録・掲載	各種関係団体のHPと相互リンク
報告ブログ（ <a href="http://gonza.shiga-saku.net/">http://gonza.shiga-saku.net/</a> ）	各種ML、blog、SNSにて情報発信
事業終了後に開設。12月末時点で延べヒット数約1,500件	

☆実行委員が個人レベルで家族友人知人にPR、および、協力団体を通じたPRにより、多くの来場者を得られた（成功要因）。

## ●パートナー&サポーター：

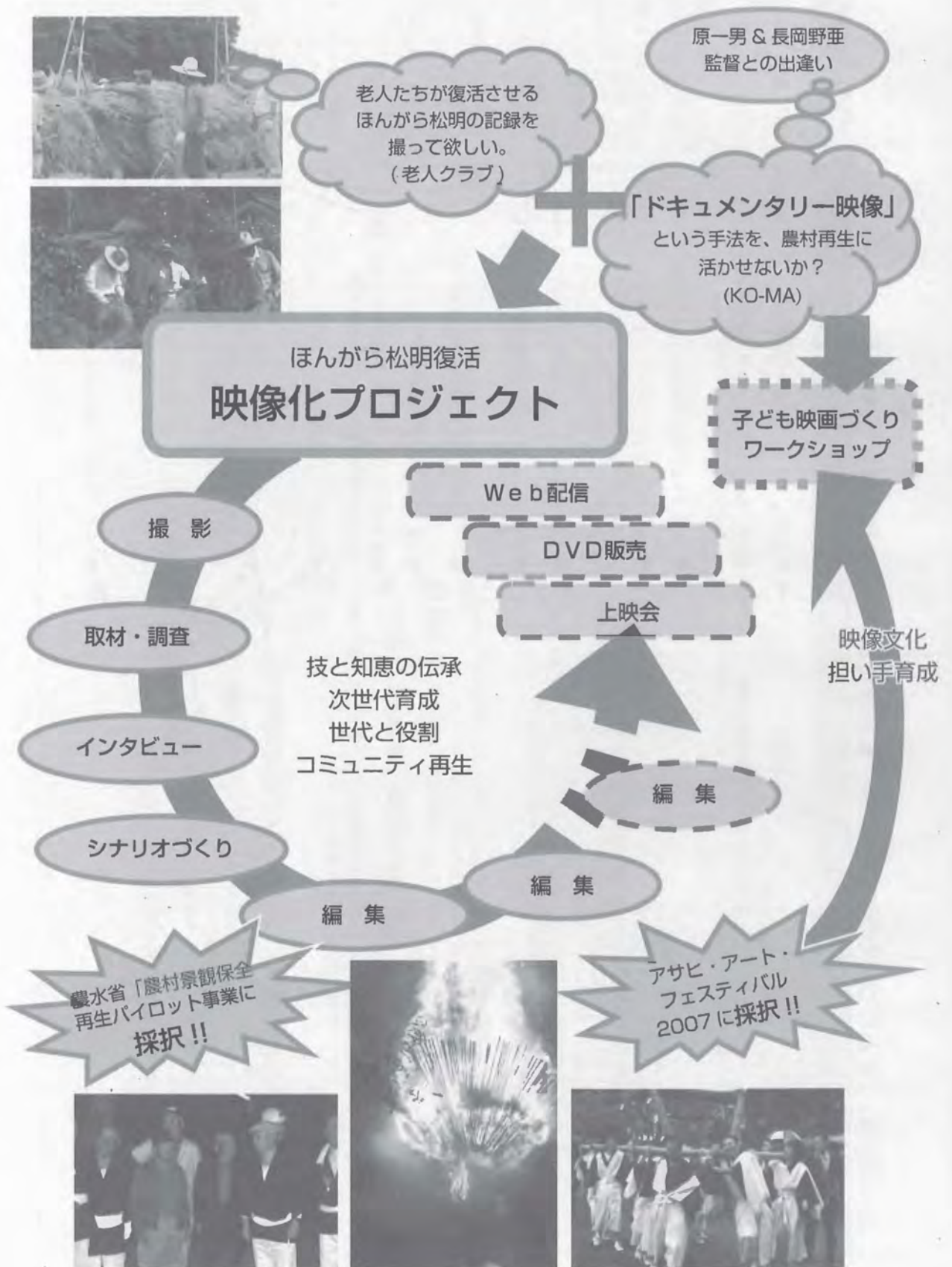
主催	権座水郷コンサート実行委員会、ひょうたんからKO-MA
後援	滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会、近江八幡商工会議所、近江八幡観光物産協会、近江八幡ケーブルネットワーク株式会社、島学区自治連合会、円山町、白王町、淡海ネットワークセンター
協力	白王町営農組合、島消防団、島小学校、島幼稚園、島公民館、ヨシ博物館、奥田修三、八幡山の景観を良くする会、奥村商店、まるやま水郷めぐり観光、島真珠水郷観光船部、NPO法人五環生活、協同組合HIP滋賀、おうみ未来塾
協賛	愛菜館、木村、あなぼこ、老製パン所、株式会社NTTドコモ関西滋賀支店、太田のタネ、大橋電設株式会社、株式会社尾賀亀、株式会社カワサキ、有限会社かわしま、キング工業株式会社、キタイ設計株式会社、税理士法人北村・奥村事務所、協同組合HIP滋賀、こんには、株式会社笹川組、あったかパソコン教室ひだまり、滋賀建機株式会社、滋賀県中小企業同友会、株式会社シガMEC、有限会社シスコム、島真珠有限会社、Chalet水ヶ坂、株式会社高井工務店、多も里、株式会社長命寺タクシー、中島社会労士事務所、西勝酒造酒造館、株式会社日本コスモテック、ネットヨタバこ株式会社、八幡電工株式会社、株式会社日吉、有限会社フジカラー南風、株式会社フレックスコンピューターシステム、近江八幡ケーブルネットワーク株式会社、株式会社朝光、前出産業株式会社、有限会社まるやま水郷めぐり観光、富川パネ工業株式会社、株式会社山本管工、やわらぎ住宅株式会社、有限会社リッククリエイティブワークス

平成18年度県民文化活動チャレンジ企画補助事業

『しま水郷田楽』(座と市づくりプロジェクト) 自己評価シート (※重点項目のみ抽出)

	プロセス	成果	課題点
<p>見渡す 「キーパーソン」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域を巡り、キーパーソンの生の声を聞いた。</li> <li>「同級生」というネットワークを利用してキーパーソンを連れてきた。</li> <li>地域が抱える課題を、外部の視点で捉え直した。“気づき”。“感性”。</li> <li>メンバー1人1人が持つ特性やネットワークを最大限に活用した。(※一見まるで共通点のないバラバラなメンバー構成が功を奏した)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「権座」という素晴らしい“お宝”を発見できた。</li> <li>◆舞台、広報、販売、協賛獲得、情報発信...全てがおおむね期待以上にうまく機能した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 権座はまだまだ宝の“原石”。</li> <li>- “カネ”を動かす持続的な場(市=CB)にしていけるかは今後次第。</li> <li>- 1人1人の個人負担が大きすぎた。(同じ形では持続不可能)</li> </ul>
<p>つなぐ 「コミュニケーション」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひょう KOMA と市の思惑をつないだことで、プロジェクトが具体化した。</li> <li>自治会・公民館からの従来ルートでなく、営農組合・消防団など機動力の高いメンバーをキーパーソンの人脈で集め、実行委員会を組織した。(ただし従来組織にもきっちり根回して大いに協力していただいた)</li> <li>未来塾のタテのつながりを活かして地元ボランティアの協力を得た。</li> <li>島学区夏祭りで、地元住民と KOMA メンバーとの「盆踊り」を通じた身体的コミュニケーションにより、地元との信頼関係を築いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆一年前倒して、盛大な権座イベントを開催できた。</li> <li>◆地元の人たちが中心になって、スムーズかつ経済的な会場設営、来客に喜ばれるワークショップ運営などが実現した。</li> <li>◆プレ企画「権座クリーン大作戦」が実現した。</li> <li>◆地元の人たちと、強固な信頼関係のもとで協働できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 天候等に助けられ事なきを得たが、楽器やアーティストの選定にムリ・アンバランスがあった。</li> <li>- 準備期間不足。</li> <li>- プレ企画の目的だった「環境啓発」に至らなかった。</li> </ul>
<p>調達する 「予算計画」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、「予算計画」をきっちりと作った。プロジェクト全体を通じて、常にこの予算計画に基づいて動きをコントロールした。</li> <li>県民文化活動チャレンジ企画ほか3つの補助事業に応募した。特に映像による訴求効果をフル活用した。</li> <li>助成金だけに頼らず、地元中小企業の社長巡りを徹底的に行い、小額の協賛金(1口5,000円)を多数集めた。</li> <li>チケット販売は、地元への組織的展開+実行委員手売り+Web&amp;TEL 受付とそれぞれ予測を立てて戦略的に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆赤字を出さず、ほぼ想定どおりの決算となった。</li> <li>◆応募した全ての助成金を獲得できた。</li> <li>◆約40社から協賛していただいただけでなく、<b>企業トップの思いを馳せたことが大きな収穫。</b></li> <li>◆地元動員はほぼ想定通り。外部からのWeb&amp;TEL 申込+当日参加は予測を大きく上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 営農組合・消防団と KOMA メンバーとのコミュニケーション不足。意識にまだまだギャップがある。</li> <li>- 舟で機材を運ぶ負担の軽減必要。</li> <li>- ボランティア(素人)による会場設営の限界。</li> </ul>
<p>広げる 「メディア活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かな広報活動と、Web・携帯Webも含めたメディア・ミックスによるリアルタイムな情報発信を行った。</li> <li>コンサートに地元児童・園児も出演してもらい、家族も招待した。</li> <li>協賛企業にも招待券を配布した。</li> <li>企業組合によるソーラー和船試乗会を同時開催した。</li> <li>単なるコンサートでなく、体感ワークショップをはじめ、権座の自然や文化を満喫してもらうための様々なしなかけを工夫した。</li> <li>パズール運営は地元の主体性に任せ、収益も地元へ還元した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各種メディアに多数取り上げてもらえ、市・県外からも大勢の来客があり、地元の人たちに“元気”と“誇り”を抱いてもらうことができた。</li> <li>◆“権座”(座と市づくり)が、企業にとっても魅力のあるフィールドであるという認識を持ってもらえた。</li> <li>◆来場者に相当高い満足感を与えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 入場者の多さに、ワークショップやパズールが対応しきれなかった。入場者数の事前予測精度の向上、食材購入量・スタッフ数等の適切かつ柔軟な調整が必要。</li> <li>- 継続性を担保するためにも、地元・企業・周辺団体との協働をさらにすすめるべし。</li> <li>- 更なる権座ファン・リピーター獲得へ向け、年に一度の単発イベントだけでなく、年間を通じて権座の魅力を感じてくれる場づくりができないか。</li> </ul>

# 【ほんがら松明復活映像化プロジェクト 活動フロー図】



## 『ほんがら松明復活映像化プロジェクト』概要

### ●実施事業：

ドキュメンタリー映画『村を継ぐ～天高く燃ゆる松明、神在りし日々、ふたたび～（仮題）』の制作  
 ～地域の「誇り」の復活、消え行く伝統の継承、地域内のタテヨコのつながり強化、持続的・自立的に元氣な農村の再生をめざして～

### ●実施にいたる経緯：

近江八幡市島町で50年以上伝承が途絶えていた「ほんがら松明」を、余命いくばくもない70代後半～80代の老人たちが復活させることを決意したのを受け、その現場にプロの映像作家によるドキュメンタリーカメラを持ち込み、地域の老人から若者へ、世代を繋ぎ、地域の未来への希望を繋ぐ架け橋になることをめざした映画づくり活動を企画した。  
 地元に入り、取材を続けるうち、地域の「青年団」がなくなった頃から、地域内の若者同士の横の繋がりも、年上から年下へと地域や社会のルールを伝えていく縦の繋がりも極めて希薄になっており、その結果、若者の地域離れや、祭など伝承行事への不参加が進んでいることがわかってきた。一方、戦前の自給自足的暮らしや自然観・宗教観が身に染み付いている老人世代は、代々受け継がれてきた様々な伝承や智慧を次世代に伝えたいまま、多くの貴重な財産が地域から消え去ろうとしている現実も見えてきた。  
 私たちは、そんな地域にドキュメンタリーカメラを持ち込むことで、老人の「伝える意志」を奮い立たせ、若者が自ら団結力を高め、「祭」というシステムを介して、世代を超えて「繋ぎ伝える地域のしくみ」を再構築していくことを試みている。

### ●実施主体：ひょうたんから KO-MA+ 撮影スタッフ

監修：原一男（映画監督、大阪芸術大学教授）  
 監督・撮影・編集：長岡野亜（原一男氏に師事する映像作家）  
 撮影補助・現場スタッフ：ひょうたんから KO-MA メンバー、滋賀県立大学学生、長岡の友人等  
 出演：島町老人クラブをはじめ、島町民の皆様  
 演出・プロデュース：ひょうたんから KO-MA

### ●期間・内容：

2006年6月～2007年7月頃 □取材・インタビュー・撮影・シナリオづくり・地元との調整・地域へのシカケなど  
 2007年4月21日～22日 □島町春の例大祭（ほんがら松明を燃やし、太鼓や神輿を担ぐ祭）本番  
 カメラクルー8名を動員した祭の撮影  
 ～2007年10月頃 □編集・補足撮影・ナレーション・音楽など（予定）  
 2007年内 □完成上映会の開催、作品DVDの制作販売など（予定）

### ●広報宣伝実績：

□菜の花学会・楽会にて取り組みを発表  
 □アサヒ・アート・フェスティバル草の根ブログ (<http://www.voluntary.jp/hyotan/>)  
 □完成上映会・DVD販売の時期にあわせて各種メディアへのPRを予定

### ●関連企画：

□子ども映画づくりワークショップ2007 in 近江八幡  
 映像で地域を表現するチカラを持った若手の発掘&育成と青少年の健全育成を目的に、原一男氏をメイン講師に据えて地元中学生を対象とした全15回程度の映画づくりワークショップを2007年6月～8月に開催予定。  
 （後援：近江八幡市教育委員会）  
 □車座座談会『地域を継ぐ、地域が繋ぐ～まつりとアート』（仮）  
 アサヒ・アート・フェスティバルの「企画間交流プログラム」を活用し、宮城県東鳴子での「GOTEN GOTEN アート湯治祭」によるまちおこしに関わっている大場陽子氏を招聘。「まつり」や「アート」による地域再生の可能性を展望する座談会を6月～7月に開催予定。

### ●パートナー&サポーター：

主催	ひょうたんから KO-MA
協力	島町老人クラブ、島町自治会、島町民の皆様、取材に応じていただいた皆様（郷土教育関係・火祭関係の専門家、宮内町左義長山車制作部など）、原一男、長岡野亜、滋賀県立大学近藤研究室、淡海ネットワークセンター、おうみ未来塾 ほか
助成等	平成18年度農村景観・自然環境保全再生パイロット事業（農林水産省） 採択 アサヒ・アート・フェスティバル2007（アサヒビール芸術文化財団） 参加

『ほんがら松明復活映像化プロジェクト』 自己評価シート (※重点項目のみ抽出)

	プロセス	成果	課題点
見渡す 「プロ根性」	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーの地元をフィールドに選んだことで、「ほんがら松明復活」というローカルでマイナーだけれども価値のあるニュースを知り得た。</li> <li>地域に入り込み、地域を動かすためのキーパーソンを的確に見出し、味方につけた。</li> <li>“幼馴染”というネットワークを利用してプロ映像作家を連れてきた。</li> <li>「ドキュメンタリー」という手法(根気強い取材や撮影による継続的で密度の濃いコミュニケーション、長いスパンで地域を解釈し表現する行為)を地域の現場に持ち込んだ。</li> <li>地域住民の動きや思いを敏感に察知し、タイミングよく手を打った。(老人クラブ総会での主旨説明、同役員会での予告編上映など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ほんがら松明復活」を題材としたドキュメンタリー映画づくりのプロジェクトが実現した。</li> <li>◆作品作りに妥協せず、真摯に地域と向き合い、全力投球する長岡さんの<b>プロ根性</b>に触発されて、地域の一人ひとりが地域の将来を考え、前に向かって動き出し、松明復活劇が予想以上に多くの人や世代を巻き込んで盛り上がった。</li> <li>◆地元住民の理解と協力を得ながらプロジェクトを進めることができ、外部からの撮影スタッフと地元との良好な関係を維持できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-映画が完成するまでの道のりはまだまだ長い。</li> <li>-完成した映画が地元や全国で上映されることによる社会的影響は、やってみないとわからない。</li> <li>-メンバー間の経験共有不足。一部のメンバーに役割が偏った。地域プロデューサーの役割として、今回の「ドキュメンタリー」は地域と濃密&amp;持続的に関わる最良の手法のひとつと言えるが、一方、「未来塾生」のプロジェクトとしては、やりにくかった。一発モノのイベント型のほうがメンバーは結束しやすい。</li> </ul>
つなぐ 「接点」	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来組織(老人クラブ、自治会、氏子総代等)にきっちり根回しした。</li> <li>AAF(アサヒアートフェスティバル)に採択され、AAF2007 実行委員に入り、他府県とのネットワークの接点があった。</li> <li>「地域福祉計画(みんなの島づくり)」への提案と予告編上映を行った。</li> <li>郷土史の専門家や島小の郷土教育の専門家などにもアプローチし、取材をした。</li> <li>地元の若手キーパーソンと自治会・老人クラブとの対話の接点を作った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全国への映像発信の足がかりができた。企画間交流プログラムへつなぐことができた。AAFのネットワークを生かして、映像コンテンツを全国発信する道筋ができた。</li> <li>◆各町の関係者に、老人が持つ智慧や技能をもっと活かす福祉事業の必要性や、途切れている伝統行事の希少価値を、インパクトをもって気付かせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-スタッフ不足。映像づくりに関心のある学生など、平日でも自由がきいて、かつ今回の経験を将来に活かしてくれるような人材をもっと獲得したい。</li> </ul>
調達する 「助成金獲得」	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影補助スタッフ、祭当日のカメラクルー、テープ起こしなど、メンバーで抱えきれない作業はメンバーのネットワークを活かして学生などをお願いした。</li> <li>AAFに応募し、採択された。</li> <li>農水省「農村景観保全再生パイロット事業」に応募し、採択された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆監督・撮影等をお願いしたスタッフに、仕事として最低限の対価や経費を支払う目処が立った。農水省やアサヒビル財団などに、社会的に有意義な活動として認められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-このプロジェクトで何をしたいのか、映像のシナリオをどうすべきか、何を撮るべきなのか、根本的に理解し、共有するまでにかなり時間がかかった。</li> </ul>
広げる 「次世代」	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の若者が地域の中でタテヨコの関係を保ち、社会的責任を果たせる組織づくりを意識して働きかけた。</li> <li>映像づくりの新しい担い手を育てる「子ども映画づくりワークショップ」を企画した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地元の若者が、往時の青年団に代わる祭礼委員会を組織し、若者が自らの役割を自分たちでやっていく形を作り、具体的に動き出した。</li> <li>◆原一男監督を招聘し、映像文化の担い手の次世代育成への足がかりをつくった。</li> <li>◆映像作家(ディレクター)+地域プロデューサー+地域のキーパーソンの3者がお互いを高めあう理想的な関係を構築できたのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-今後、DVD販売など自己資金の調達が課題。</li> <li>-祭礼委員会(若者主体の組織)が本当に地域の中で機能していくためには、これからさらにシカケが必要。</li> <li>-「子ども映画づくりワークショップ」をぜひ成功させたい。</li> </ul>

きずな

# 絆：世代&地域

テーマ theme

「みんなの居場所」を滋賀に100ヶ所つくろう！

グループ紹介 introduction

子育て支援を通じて、シニアの人たちの世代を超えた地域の中での居場所づくりをテーマにスタートした「絆：世代&地域」であるが、調べるにつれ、最も居場所が欲しいと渴望しているのは、行政的には保育に恵まれているとされる、子育て真っ最中の専業主婦であることがはっきりしてきた。子育てで悩み、苦しみ、不安を抱える中でネグレクトや虐待につながっている実態を、世代を超えた地域の中で何とかすることが必要だと意識している。県下100ヶ所の第1歩として守山市内への設置をめざす。

メンバー member

市岡朗子 稲田博文 坂手孝夫 白石一夫  
土田滋男 古澤良一 山本尚三郎



Kizuna: Sedai & Chiiki

# 絆：世代&地域（子育て応援団）

## グループ研究活動計画

研究の目的	<p>当初：子育て支援を通じて、シニアの人たちが世代を超えた地域の中での居場所を作ることが出来ないかを研究する。</p> <p>&lt;情報を分析後目的を修正&gt;</p> <p>：高齢者が子育て支援をするのではなく子育て世代も、高齢者も、団塊の世代も、障害のある人もだれでも仲良く交流で切る場を作る。</p> <p>*孤独な人を作らない。</p>
研究目標	モデル事業として一箇所で取り組みが始まるようになること
活動テーマ	湖南地域、守山市をフィールドとして選ぶ
地域の課題	<p>守山市で21歳のシングルマザーが赤ちゃんをアパートに置いたまま、パチンコ店に勤務に行ったところ9時間後に自宅に帰ったらあかちゃんは肺炎でなくなっていた事故がありました。</p> <p>若い母親が一人で子育てに悩んでいるのに相談、頼るところがわからなかったのは何故なのか？</p> <p>他にも表面には現われないが子育てで精神的に苦しんでいる母親は多いと想像できる。特に滋賀県の南部地域は大阪、京都から引っ越してくる若い夫婦が多いので、近所に互いの両親などいざというときに頼りに相談できる身内のない人が多い。しかも、引越してきたばかりとかで地域に知人などもいない人が多いと想像できる。</p> <p>2007年問題といわれる、団塊世代の大量定年を眼の前に控え、元気で意欲のあるシニア世代と子育て世代が互いに助け合いの出来るまちづくりに貢献できるのではないかな。</p>
活動到達点	モデル事業としての取り組みがスタートできている

### 年間スケジュール概略

2006年 3月～9月	<p>フィールドの選定</p> <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドの現状把握</li> <li>・子育て支援グループから情報収集</li> <li>・公的な支援体制の検証</li> </ul>
10月	団塊世代への呼びかけの方法検討
11月～ 12月	モデル地域における子育て支援のあり方検証 (ニーズ、課題、資産の棚卸)
2007年 1月～2月	具体的支援活動策定
3月	モデル事業のスタート

## グループ研究活動記録概略

2006年3月	湖南地域、守山市をフィールドとして選ぶ
3月21日	「滋賀子育てネットワーク」の役員さんと意見交換 ・地域の中で対応する場、人、雰囲気が無い
4月17日	空き店舗について検討（守山の商店街の「HATI」など）
5月1日	「滋賀子育てネットワーク」の情報提供と意見交換 ・平和堂の店舗内部の提供例（現場見学）・大津市の子育て支援環境について
5月28日	「守山市の子育て支援の現状を聞く」 ・ファミサポの現状問題点確認・サークル開いても輪になれない母親 ・母親が大人になりきれていない・保育でなく育児のフォローがしてほしい
7月2日	守山市内子育てグループ「ハビ」-加地佐さんらとの意見交換 ・やはり組織として各グループのネットワークが必要
8月～9月	モデル事業について HATI、商工会議所、子育てグループへの説明 大きな課題が出てくる ・子育てグループは事業を利用したい ・商工会議所は商店街活性化として前向きに検討する。 ・シニアグループは、責任が大きいため受けられない。
以上の情報を分析検討した結果 “研究目的の修正”	
新研究目的	高齢者が子育て支援をするのではなく子育て世代も、高齢者も、団塊の世代も、障害のある人もだれでも仲良く交流で切る場を作る。*孤独な人を作らない。
10月23日	生活共同組合コープしが“ゆめふうせん”見学、説明を受ける ・居場所の具体化のため現場見学
11月4日	NPO ほほほハウス代表山脇玲子氏のフォーラムを開催 ・居場所の具体化のため講演を聴く
12月10日	みんなの居場所づくりワークショップ/守山市 ・守山市民新聞に取上げられ、賛同者あつめの第一弾
1月20日	みんなの居場所づくり意見交換会/守山市 ・リビング 2007.2.3版〔添付〕を参照ください。 賛同者あつめの第二弾
2月2日	しがコミュニティビジネスホーラム “パネル展示に参加” 賛同者集め
2月18日	「地域の茶の間」「うちの実家」を立ち上げた河田珪子さんの講演会開催 ・参加者の大きな支持を得たアンケートを添付、今後の活動の拠り所
3月3日	退職シニアの地域デビューフォーラム “パネル展示に参加” 賛同者集め
3月10日	みんなの居場所づくり意見交換会/守山市 未来塾以外からの参加を得、今後の展開を検討、 「みんなの居場所」作ろう会が中心になって新潟に負けないコミュニティビジネス事業としていく」

## グループ研究活動をふりかえって

絆：世代 & 地域子育て応援団のスタート時の目的は「地域の中で、世代を超えた子育て支援」でした。空き店舗などを利用した子育て支援を守山市に開園させることがゴール目標でした。

しかし、色んな方々に話を聞き、現場を知り、机上で考えた通りにはいかないことがわかってきたのですが、そこで軌道修正できたことは結果として考えるとよかったと思います。

河田珪子さんの講演会を開く前には、「みんなの居場所」を滋賀県に100か所つくることを目標にしたのですが、講演会のアンケートの結果を見てその思いを強くしました。

卒塾時点では「みんなの居場所は1か所も開園していませんが、「みんなの居場所をつくる会」として組織的にも拡大し、賛同者も20名上になり卒塾後の活動として大きな可能性を残せたことは大きな成果だと考えます。

おかげさまで、場所を提供しようという方、居場所が開園したらボランティアとして管理をしたいという人も現れ、第一号の開園もまもなくできそうです。

未来塾から始まった「みんなの居場所」が、滋賀の市民活動の大きなウェーブになる予感をメンバーは感じています。

## 行動計画変更

☆モデル事業について地域商店街活性化と世代間交流によるCBを断念する

# 子育て世代 & シニア 世代の交流できる “みんなの居場所” 作りに変更



## 今からが本番

“みんなの居場所を”100か所つくるとは、  
いっばいつくろうということ!!

少子化や高齢化、幼児虐待など、さまざまな社会の問題を、みんなの「居場所」をつくり地域交流を深めることで解決していこう、と考えているのが「絆(きずな)・・・世代&地域 子育て応援団」(以下「絆」)の皆さん。活動はまだ始まったばかりですが、一歩ずつ取り組む姿を取材しました。

# 世代も立場も超えた、地域の交流を 滋賀に100の 『居場所』を つくる

◀フォーラムには、おみ未来塾(※)7期生が中心となっている「絆」のメンバーと、市の広報などを見て参加した14人が参加。中央獎が土田さん

※おみ未来塾…淡海ネットワークセンターが運営。地域課題に取り組み、魅力ある市民のリーダー「地域プロデューサー」育成を目指す

「昨年初め、守山市でシングルマザーが仕事のために赤ちゃんを自宅に置いて出かけ、帰省したらなくなっていたという事件があり、『地域では何も手助けできなかったのか』という思いからこの活動が始まりました」

先月、守山で開催された「絆」主催のフォーラムでは、まず最初に「絆事務局を務める土田滋男さん(66歳)から、『居場所

## 子育て中のママが一人で 頭張り過ぎないように

「ひとり」のきつかけが語られました。

そして、同じく、全国で相次いだ幼児虐待や育児放棄の問題から、「育児に専念するお母さんが、一人で家に閉じ込められず、誰かと話せる場所が必要」と考えるようになったと。誰かと話せる場所が必要なのは子育て中の人に限らないです。子供から独り暮らしのお年寄りまで、誰でも気軽に過ごせる「居場所

**叡山歯科** 日曜 祝日  
も診療しています  
**579-7778**  
往診致します JR比叡山坂本駅前  
<http://www.halsya.net/stp/> (携帯からもご利用可)

## 空き店舗を利用して 気軽におしゃべりできる場を



守山銀座の「HAT! (ハティ)」には、お茶を飲みに来て世間話をしていくだけの人も多いのだとか。土田さんの目指す「居場所」のモデル的な存在

「子育てに専念している人、家に閉じ込められている人をサポートしていきたいと思っているので、たいへん参考になりました」青木えい子さん(東京都で、未就園児とお母さんの広場「ポンポコ」を運営)



「絆がやろうとしていることは、私のやりたいことにとっても近い。私もいま、サロンの新しい場所を探しているのですが、空き店舗などがない住宅地なので、それに代わる場所や運営の方法をもう一度考えたいと思います」小倉久美子さん(大津市仰木の里で、地域の人が集まれる「ふれあいサロン」を運営)

「高齢者の楽しみや生きがいに興味があって参加したのですが、やはり、地域内での交流や、つながりが大切なんだなぁと実感しました」青沼栄子さん(守山市在住・主婦)

その後、参加者は守山銀座商店街で、守山商工会議所が空き店舗を利用して運営しているカフェ「HAT! (ハティ)」と「まちなかギャラリー」を見学。「HAT!」では、カルチャー教室の開催や、手作りの品の販売が行われています。

2月18日(日)には、「絆」に賛同するNPO法人「あひらいんど」主催の「河田瑛子さんの講演会」を開催します。河田さんは、新潟県で、若者男女を問わずに誰をも集める「地域の茶の間」を営む「宿泊できる」うきもの実家「へび」を立ち上げた人物。土田さんは「河田さんの活動を、滋賀向けに合わせアレンジしていければ...。そのためにも多くの人の講演を聞いてもらいたいです」と、まず詳細は左参照。

### 【河田瑛子さん講演会】

講演会のほか、パネルトークなどもあり。託児も可能(事前に申し込みを)。

日時 2月18日(日)午後1~4時  
場所 近江八幡市 G-net しが (県立男女共同参画センター)  
参加費 100円  
定員 先着120人  
問い合わせ ☎090(709)18376 =土田さん、☎077(579)4312=坂手さん  
e-mail chibico@ex.biwa.ne.jp

# 河田瑠子氏講演会&みんなの居場所フォーラム、アンケート結果

2007年2月18日 於：G-NETしが  
アンケート46名回収(有料受講者72名)64%回収率

## 1. 集計結果

講演会の内容について

1 みんなの居場所講演会は

1とっても良かった	2良かった	3普通	4悪かった	5その他
28	17	1		
61%	37%	2%		

2 河田瑠子さんの講演会は

1とっても良かった	2良かった	3普通	4悪かった	5その他
36	10			
78%	22%			

3 パネルトークは

1とっても良かった	2良かった	3普通	4悪かった	5その他
20	18	4		
43%	39%	9%		

4 この講演会を知ったのは

1 ちらし	2 メルマガ	3 新聞	4 ラジオ	5 mixi	6 知人	7 その他
17	2	7			12	4
37%	4%	15%			26%	9%

5 どの内容にもっとも興味を持ったか？

1 河田瑠子さん講演	31	67%
2 みんなの居場所講演	10	22%
3 パネルトークの話	11	24%

6 みんなの居場所作りに参加するとしたら

1 仲間としていい所に活動	4	9%
2 趣旨に賛同できることに協力	21	46%
3 趣旨に賛同今は協働は難、いつかする	8	17%
4 趣旨に賛同メルマガ要	2	4%
5 趣旨に賛同会員になる	0	-
6 この活動は不要	0	-
7 その他	1	2%

参加者地域別

大津市	15
近江八幡市	13
愛荘町	10
守山市	9
彦根市	6
東近江市	6
高月町	2
草津市	2
亀岡市(京都府)	2
甲賀市	1
日野町	1
湖南市	1
明石市(兵庫県)	1
不明	3
	72

## 2. 記述内容

(1) どの内容に興味を持ちましたか？

女性(愛荘町)	河田瑠子さんのエネルギッシュな活動に元気を頂きました
男性(近江八幡市)	以前病院に勤務していたころから、高齢者の帰る場所がないということを気にかけていました。個人、個家族単位になっているために、入院依存、一度入院してしまうと自宅に帰宅することが出来ない現実。地域が一人ひとりを認め合い、声がかげられる存在であるなら在宅で最後を迎える方が増えるのではないかと思います。
?	もう30分ほど河田さんの苦勞など具体的なことも聞きたかった
女性(守山市)	どの内容もそれぞれに一番興味をもった場面がありました。
?	継続するためには[今出来ていないのは?]・聴きださない・いい顔をする これができいていないのだと判った。

男性（東近江市）	福祉社会を別の側面から見た感じがした。でも河田さんのポリシーはすこぶるハイレベルであるので、では第1歩は何、、、？が？
女性（明石市）	自分も含めて人がその人らしく、地域で死ぬまで豊かに暮らしていくために自分にできることは何か？15年くらい前から考え、看護師ではありましたが福祉大学で老人福祉、地域福祉を学びました。その時に、だれでも参加できる。スタッフも利用者もない居場所づくりに関りました。その参考にした先行活動が富山の「このゆびと～まれ」であったこと、活動を通して看護や医療の知識や技術の必要性を痛感し、看護の勉強をやり直すべく看護大学に通っています。河田さんの講演を拝聴して看護の需要があるのか自問することになりました。ただ、この地域の居場所の熱気や可能性等看護界にもっと認知されるようにこれからも交流したいと思いました。（このような活動に）
女性（箕面市）	岡田専務理事の試み。モノ作りの人の定着や空き家の問題や、やりぬく心構え、地域、商店街への取り組みが感動です。開かれた相談日があれば嬉しいです。自分のことで手一杯で博愛精神がまだそこまで育ってなくて活動できること賀があれば協力したいに○をしました。
男性（近江八幡市）	通勤族です。妻は単身は賛成しない（家族は一緒に居るべき）ですし、専業主婦です。とうぜん、周囲には知人は中々出来ません。気軽に入れる場所があればなあ～と思い参加しました。
女性（近江八幡市）	商店街の空き店舗利用。 ネットワークの大切さ。
？（男性）	自分が人生で直面したことが活動の根底にあるのだなあと判りました。「人のために」「してあげる」というのではなく、自分の当事者性が伺えた、大変参考になりました。
女性（大津市）	河田さんの当事者性、カリスマ性あっての（地域の茶の間やうちの実家）ことかなという印象を受けました。
女性（亀岡市）	様々な立場を超えてのネットワーク作りが大切。ミッションをしっかりと持つことの大切さを伝えていただきました。
女性（亀岡市）	自らの願いに根ざしてできるところから始められたこと、地域の方の協力が得られたことなど、とても参考になりました。
女性（愛荘町）	利用者さんの「またくるで」の言葉で励まされたこと。合するところがありました。
女性（尼崎市）	1、は自分が必要としているものから始めることが新鮮に感じた。2、3、は継続することの大事さを改めて認識した。
男性（守山市）	いろんな立場の意見が聞けたこと。子育ての人たちの母の考え。
男性（大津市）	地域の茶の間の原点。何をやるにもパワーがいるし、人と人とのつながりの中でのモチベーションの差や人間関係の確執など、お金など物理的困難だけでなく精神的な部分での大変さが大きいと思いました、しかし、何のために、何故、を忘れないことが大切なのだと、物事をやるという原点の心を改められました。
？（女性）	県内の事情もわかってよかったです。

## (2) どの内容に興味を持ちましたか？

？（？）	今も活動に参加していますが、どおしてもチーチーパッパ的になってしまう。誰かが音頭を取らなければということもありますが、地域での居場所ってというのが一番良いと思います。
女性（愛荘町）	河田珪子さんの言葉遣いが心地よく心温まるお話でした。ありがとうございました。
女性（愛荘町）	河田さんの活動のお話を聞き、活力をいただきました。パネラーの方々の活動も参考になりました。
？（女性）	感動を頂いたので次の行動の力になりました。
男性（近江八幡市）	創始者の初志貫徹がわかった
男性（大津市）	民生委員になって2年。私の老後の場所が欲しいのと、子育てサロンを主宰して交流の場が出来れば良いなと思っていたら、リビングの記事のようにやはりそういう場があった。なんだか明日にでも実現できそう。
女性（愛荘町）	心の壁を作らず初めてでもすんなりと入っていける雰囲気づくりが大切であるということ。

(3) 提案や意見ををお願いします。

男性 (近江八幡市)	自分は自分、人は人と感じられる今日この頃の殺伐とした世の中で自分の又はみんなの居場所は非常に大事だと思います。若い通勤族の人たちでも入りやすい居場所づくりをお願いします。
女性 (草津市)	力強い活動ですね。滋賀県にも根付いたら良いと思う運動だと思う。支えあう高齢社会をつくりたい。
女性 (近江八幡市)	こういう話を聞くことが出来てとても良かった。関心のある人が少しづつ形を作りあげて行けたら良いなあ~と思います。
男性 (東近江市)	自分の地域の中で居場所作りを計画、具体化しようとしています。今日の講演内容は大変参考になりました。
男性 (東近江市)	今日の講演会の一言でも、実践の場で生かしたい。
女性 (明石市)	神戸、明石、姫路にも居場所をつくりたい (今すぐにはできませんが) ので長いお付き合いをお願いします。
男性 (近江八幡市)	障害者の地域支援センター職員です (日野町の) 日野か東近江に誰もが集える場づくりを提案しています。いろいろ考えていただけたらと思います。
女性 (箕面市)	講習会に参加することは素晴らしいことです。メインの議題以外の余禄がいっぱいありました。フォーラムで多くのつながりができました。ネットワークを育てることは大切だと思います。終了後に参加者の交流会があれば嬉しいです。
男性 (近江八幡市)	良く“子どもの居る親 (子育て世代) を対象にしたサークルや集まりは多くあるのですが、子どものいない若い世代も参加できるようなものを作って欲しい。！！是非そういうような”居場所”ができれば参加 (最初は参加会員でしか参加することは出来ませんが) したいと思います。
女性 (亀岡市)	遠くから来た甲斐がありました。私は京都であったかい居場所づくりをしています。
女性 (亀岡市)	今日の話参考にして私たちの地域でも出来ることに取り組みたい。
女性 (愛荘町)	今運営していますが、突き当たるところがいろいろありますが (昨年5月開所) ほちほちいきますとボランティアの合言葉です。今は利用者さんからはお金は頂いていません。
女性 (守山市)	今までこのような会があることを全然知りませんでした (結婚前は高島市に住んでいて) これから自分も母親になったり、親の介護が必要になってくるであろうということは判っていましたが、あまり実感がありませんでした。今後このような催しがあれば参加していきたいです。結婚して今住んでいるところでは (アパート) 中々近所の付き合いもないので。
男性 (守山市)	具体的に居場所づくりにどのような計画があるのか知りたいです。
女性 (守山市)	今日は本当に出席出来てよかったと思っています。自分のしたいこともとめていたものが少しづつははっきり形になってきているようです。3月10日も必ず出席します。
? (女性)	肩を貼らずに自分のやりたいことを行動に移している方の話を聞くのは自分にも元気をもらうことになります。人をよろこばせたいという人が各地に広がっていくのはうれしい。[自分の未来のためにも行くところがあるというのは希望が持てる] そこで元気をもらった人がまた、次に返していくひろがりがあることはいいですね。そんな地域と社会になればと願っています。
女性 (愛荘町)	これからの私の町が楽しく住み良くなる様に希望が持てました。[もちろん私自身が]
男性 (近江八幡市)	会派には属さずに協力できればと思っています。
女性 (大津市)	河田さんの講演を聞いてとても良かったです。今、地域で1ヶ月限定サロンを毎日オープンしています。いろいろ問題点も出てきました。今後継続していくために今日の話参考をさせていただきます。地域の居場所は必用です。滋賀に沢山増やしていけたらいいですね。
女性 (愛荘町)	田舎だどうしても見知らぬ人を見たらすぐに観察する目つきで見えてしまうところがあり、中々解けこむのが難しく。新潟ではどのような方法でくずされていかれたのかお聞きしたい。

## 第四部

# 7期生に向けて

2年間お世話になった、塾長・運営委員の皆さんからのメッセージです。(これからの活躍を期待してください。)



おうみ未来塾塾長

**日高敏隆**

(動物行動学者・滋賀県立大学初代学長)



おうみ未来塾運営委員長

**北村裕明**

(滋賀大学教授)

## 未来塾が見えてきた！

第7期生の皆さん、卒塾おめでとう！

卒塾式のときに、ちゃんとソツジクと言えなくてすみませんでした。でも、あれはぼくが悪いのではなくて、ソツジクシキということばが、日本語の発音ではとてもむずかしいからだと思っています。そう思って許して下さい。

発表会を聞いて、「ああ、おうみ未来塾もいよいよその姿が見えてきたな。」と思いました。

おうみ未来塾は地域活動のプロデューサーが育つ場だということで始まりました。

それはまさにそのとおり、近江の未来に関わるとても大事な仕事です。でもどうしたらよいのか？

塾生はもちろん、運営委員の先生も、そしてぼくも、じつはそれはわかっていなかったのです。わかっていたのはその理念。理念は大切ですが、世の中は理念だけで動けるわけではありません。

みんなそれで悩みながら具体性を探ってきたのです。

その努力がいよいよ実ってきたのでしょうか。君たち7期生の具体的な活動はすばらしいものでした。「曲谷 LOHAS 倶楽部」、「逢味おむすび隊」、「ひょうたんから KO-MA」、「絆：世代&地域」、どれも苦労したでしょうね。でもたのしかったと思います。具体的な動きの中から、それぞれにいろんなことを学んだだろうなと思いつつ、ぼくはほんとうにのめりこんで発表を聞きました。嬉しかったです。

卒塾してからも、皆さんはいろいろな面で活躍してくれると思います。いろんなことをして下さい。それがこのおうみ未来塾の願っていることなのです。今度はちゃんと言いますー卒塾ほんとおめでとう！ますます元気でがんばって下さい。

## 地域ガバナンスと 地域プロデューサー

21世紀は分権の時代だといわれていますが、時代を読み解く一つのキーワードが、ガバナンスという言葉です。

日本の地方分権に大きな役割を果たした地方分権推進委員会によれば、分権とは「身の回りのことに関する自己決定権の拡大である」と定義されています。分権をこのように理解すれば、今日の分権時代に求められていることは、戦後の社会がそうであったように、家族や共同体が担えなくなった地域共同業務を、主に地方政府が担う時代から、改めて地域社会全体で担う時代へ移行させることであるといえます。そうした中で、政府（ガバメント）と民間との関係のあり方が問われているのです。そして地域社会では、地域ガバナンスの再構築として位置づけられる、市民、市民組織、地域事業者、地方政府の連携と協働が求められるようになったのがあります。

こうした時代の文脈で、地域プロデューサーたる意志と資質をもった人々が、その地域にどれだけ存在するかが、地域ガバナンスの水準を高めるためには決定的に重要となってきています。それは、地域に必要な共同業務を自ら発見し、政策化し、実際に供給し、その必要性を実証するのが地域プロデューサーだからです。地方政府は、地域プロデューサーが多様な活動が展開できるような条件を整備し、彼らが生み出した成果が継続できるような制度を設計することによって、地域のガバナンスの水準を高めてゆくことが求められる時代となっているといえましょう。

おうみ未来塾を卒塾される7期生の皆様方が、地域プロデューサーとして、地域ガバナンスの水準を高める活動を展開されることを期待します。



おうみ未来塾塾長

**日高敏隆**

(動物行動学者・ 滋賀県立大学初代学長)



おうみ未来塾運営委員長

**北村裕明**

(滋賀大学教授)

## 未来塾が見えてきた！

第7期生の皆さん、卒塾おめでとう！

卒塾式のときに、ちゃんとソツジユクと言えなくてすみませんでした。でも、あれはぼくが悪いのではなくて、ソツジユクシキということばが、日本語の発音ではとてもむずかしいからだと思っています。そう思って許して下さい。

発表会を聞いて、「ああ、おうみ未来塾もいよいよその姿が見えてきたな。」と思いました。

おうみ未来塾は地域活動のプロデューサーが育つ場だということで始めました。

それはまさにそのとおり、近江の未来に関わるとても大事な仕事です。でもどうしたらよいのか？

塾生はもちろん、運営委員の先生も、そしてぼくも、じつはそれはわかっていなかったのです。わかっていたのはその理念。理念は大切ですが、世の中は理念だけで動けるわけではありません。

みんなそれで悩みながら具体性を探ってきたのです。

その努力がいよいよ実ってきたのでしょうか。君たち7期生の具体的な活動はすばらしいものでした。「曲谷 LOHAS 倶楽部」、「逢味おむすび隊」、「ひょうたんから KO-MA」、「絆：世代&地域」、どれも苦労したでしょうね。でもたのしかったと思います。具体的な動きの中から、それぞれにいろんなことを学んだだろうなと思いつつ、ぼくはほんとうにのめりこんで発表を聞きました。嬉しかったです。

卒塾してからも、皆さんはいろいろな面で活躍してくれると思います。いろんなことをして下さい。それがこのおうみ未来塾の願っていることなのです。今度はちゃんと言いますー卒塾ほんとおめでとう！ますます元気でがんばって下さい。

## 地域ガバナンスと 地域プロデューサー

21世紀は分権の時代だといわれていますが、時代を読み解く一つのキーワードが、ガバナンスという言葉です。

日本の地方分権に大きな役割を果たした地方分権推進委員会によれば、分権とは「身の回りのことに関する自己決定権の拡大である」と定義されています。分権をこのように理解すれば、今日の分権時代に求められていることは、戦後の社会がそうであったように、家族や共同体が担えなくなった地域共同業務を、主に地方政府が担う時代から、改めて地域社会全体で担う時代へ移行させることであるといえます。そうした中で、政府（ガバメント）と民間との関係のあり方が問われているのです。そして地域社会では、地域ガバナンスの再構築として位置づけられる、市民、市民組織、地域事業者、地方政府の連携と協働が求められるようになったのあります。

こうした時代の文脈で、地域プロデューサーたる意志と資質をもった人々が、その地域にどれだけ存在するかが、地域ガバナンスの水準を高めるためには決定的に重要となってきています。それは、地域に必要な共同業務を自ら発見し、政策化し、実際に供給し、その必要性を実証するのが地域プロデューサーだからです。地方政府は、地域プロデューサーが多様な活動が展開できるような条件を整備し、彼らが生み出した成果が継続できるような制度を設計することによって、地域のガバナンスの水準を高めてゆくことが求められる時代となっているといえましょう。

おうみ未来塾を卒塾される7期生の皆様方が、地域プロデューサーとして、地域ガバナンスの水準を高める活動を展開されることを期待します。



おうみ未来塾運営委員  
**岡崎昌之**  
(法政大学教授)



おうみ未来塾運営委員  
**岸田眞代**  
(NPO 法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

## おうみ未来塾の ネットワークを活用して

2年間にわたり熱心な活動を継続していただき、大変ご苦労様でした。先般の卒塾式での皆様の経緯と結果の発表をお伺いし、とても頼もしく感じました。滋賀県を舞台に活躍するたくましい地域プロデューサーがまた26名増えました。これからは各グループの枠を越えて滋賀のまちづくりを担うプロデューサーとして多方面で活躍してください。

しかし地域プロデューサーとは難しいものです。福祉、教育、環境など、いずれも地域社会におけるとても身近な課題が現在のまちづくりのテーマです。それぞれのテーマに関わる多くの人たちの意見を聞きながら、全体の方向を見定めなくてはなりません。そのためには取り組もうとする課題やテーマに関してかなりの専門知識を備えていることが要求されます。自分自身に専門知識が不足しておれば、他の専門家の助けを借りなければなりません。そのときこそ未来塾でのネットワークを活用するのです。

頑張れば頑張るほど、周囲から孤立しやすいのも、地域プロデューサーやまちづくりリーダーの宿命です。そんなとき、いつか地域を離れ、未来塾で辛酸をともにした仲間と傷を舐めあうことも必要でしょう。また162名の卒塾者と運営委員、事務局の皆さんが、役に立つときなのです。

ネットワークは自ら行動するとき、役に立ちます。ネットに加わっているだけでなく、ネットをワーク（動かして）させてはじめてネットワークなのです。

## 卒塾おめでとうございます

降らんばかりの星空に酔いしれた伊吹での合宿。つい先日の卒塾式にも見事な江州音頭を披露してくれた民宿のおじさんと忘れられないほどおいしかったイワナの骨酒。何より、今は米原市となったその地には、まさにみなさんが目指す「地域プロデューサー」として優れた人たちの存在がありました。

翌日早速ワークショップでまとめ発表していただきましたが、それはただ学びっ放しにするのではなく、参加者それぞれが、自分たちの活動に取り入れ生かしていくためでもありました。もちろん、学ばせていただいた現地の方たちに、その成果をきちんとお返ししていくことも忘れてはなりません。

7期生がそれにきちんと応えてくれたことは、私にとってもたいへんうれしいことでした。

それからすぐに現地に何度も通い、奥伊吹でのイベントに結びつけていったグループ、近江八幡の、地元ですら忘れ去られようとしていた歴史と文化を、地域を巻き込んで掘り起こし大イベントとして成功させたグループ、等々。私自身も、部分的ではありましたが直接参加させていただいて、7期生のみなさんの底力に感心しながら、愉しませていただいたことに心から感謝しています。

これからこそが、みなさんにとっての「本番」です。「地域プロデューサー」としての実力を、ぜひ自分の地域で試してみてください。もちろん、すぐに可能な方もまだ少し修行が必要な方も、それぞれの力とやる気に応じて、「未来塾」で培った力を精一杯発揮されますように。

心から応援しています。



おうみ未来塾運営委員  
澤 孝彦  
(おうみ未来塾第1期生)

## おうみ未来塾での出会いを 励みにして

おうみ未来塾7期生のみなさん、卒塾おめでとうございます。この2年間のいろんな出来事をそれぞれ思い出しながらも、これからの新しい活動についての計画を練っておられることと思います。私は、昨年からおうみ未来塾運営委員にして頂いたおかげもあって、みなさんの素晴らしい成果報告を見せて頂くことができ感謝しています。各グループそれぞれの成果発表はどれも素晴らしく感激とともに、私自信も元気を頂きました。これまでのおうみ未来塾の着実な積み重ねが、今回の充実した成果報告会に繋がったと思っています。

このおうみ未来塾の一番のよさは、いろんな人とのネットワークが生まれることだと思っています。住んでいる地域も年代も活動分野も違う人たちとの2年間は、けっして楽しいことばかりではありませんが、一つの目標に向かって進んでいく中においては、仕事の中では味わえない喜びや自分自身の新しい発見があります。

私たちを取り囲む地域社会の状況は、年々変化し、またきびしくなっていくように思いますが、このような時代こそ、新しい地域課題に取り組む魅力あるリーダーが必要であります。おうみ未来塾ももうすぐ第9期生を迎えます。たくさんの仲間の輪が広がっていきます。仕事や人間関係など、人間として生きていくうえには、いろんな悩みや苦しみにも出会いますが、おうみ未来塾の仲間の顔を思い出すと不思議と元気になると時があります。おうみ未来塾への出会いを励みにしてこれからもがんばって頂きたいと思っています。心から期待しています。



おうみ未来塾運営委員  
藤井 絢子  
(滋賀県環境生活協同組合 理事長)

## 活躍を楽しみにしています

「おうみ未来塾」を伝えるとき、日高塾長のメッセージを私自身がいつも反芻してきました。“…人は必ずどこかの地域に生きています。課題・問題は地域にこそあるのです。地域の問題を発見し、行動に移せるよう…「地域プロデューサー像」を思い、描き、創り出すよう…”

環境生協・菜の花プロジェクトを実践している運営委員として、塾生の皆さんと共に育つ力を高めえていない、とフラストレーションがつのって来ていました。見事モヤモヤを吹きとばし「地域プロデューサー」なるものはこれだ!と教えてくれたのが第7期塾生の皆さんでした。中でもナタネに由縁ありということで当初から関わった「ひょうたんからKO-MA」チームは本領発揮。秘密はおそらく“地域”に徹底してほれこみ、ヒトも暮らしも、伝統も、人づきあいも何もかもが新鮮でおもしろいと塾生すべてがのめりこんだこと、そして、まるごとのめりこむだけの魅力が当該地域にあったこと、塾生のスキル、能力が多様な分野にまたがっていたことにより、1プラス1が2ではなくプラスαが時間経過と共にふくらんでいった事にありましよう。

ただし、1、2年は燃える。プロデューサーが本物かどうかは、継続性、発展性が年毎にどう高まるかにかかっています。ゆえに、卒塾式では満点以上ともいえるような評価でしたが、2、3年後、数年後、十年後、地域の人達とどう育ち合っていくか、真の評価はそこで出るとおもいます。活躍を楽しみにしています。

## 7期生の皆さんとともに2年間を過ごして～事務局担当者のふりかえり～

世代も、地域も、経験も、価値観も、さまざま。けれども、地域や社会に実直で前向きというところで共通している。おうみ未来塾第7期は、そんな人たちの集まりでした。私も、7期生の皆さんの目線で未来塾を見ようとしているうちに、「こんな面白い仕事はない」と、ときには事務局を預かっている立場を忘れそうになりながら、皆さんと一緒に取り組んできたつもりです。これまで経験した仕事では得ることのできなかった何かを、この未来塾を通して学び、これからの仕事の進め方や、少し大げさな言い方ですが、生き方も含めて7期生の皆さんに育ててもらった・・・いいえ、育ちをサポートしてもらったと思っています。

さて、表紙に写っている小ピンは、7期生の皆さんの卒塾のときにお贈りした記念品の写真です。小ピンの中には、4つの場所の「土」が入っています。曲谷LOHAS倶楽部のイベント「みちひらきまつり」の会場「曲谷区ユリ園の土」、逢味おむすび隊の食育活動でお世話になった小津イレブンの本拠地「小津小学校グラウンドの土」、ひょうたんからKOMAの「ほんがら松明復活映像化プロジェクト」の舞台、近江八幡市島町「若宮神社境内の土」、絆：世代&地域がお世話になった「育児ひろばアプリコット」が開かれる甲賀市水口町「自主活動センター『きずな』の土」です。

これからの地域づくりには、その地域に住む人やその課題に直面している当事者あるいは当事者に極めて近い「土の人」のチカラと、それを引き出しサポートする、あるいは「土の人」とともに活動するよそ者「風の人」のチカラが重要です。この報告書のタイトルとされた「風土力」を信じて、それぞれのフィールドで活躍されることを楽しみにしています。そして、活動していくうえでは、様々な壁に行き詰まることもあると思います。そんなときに、この未来塾で学んだことや、ともに汗を流した確かな仲間が居ることを思い出してほしい、お贈りした「土」には、そんな思いを込めています。

おうみ未来塾7期生の皆さん、2年間本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。

おうみ未来塾 事務局担当スタッフ 林 章

## 編集後記

いろんな事がありました。大変な苦勞もしました。(遠い目) 様々な才能やネットワークを持つ7期生の繋がりが出来た事が最大の成果だと思っています。この横の繋がりに、未来塾1期生からの縦のつながりが出来れば、とてつもないネットワークが出来ると思います。とりあえず、私も自分の地域で「小さなことからコツコツと」頑張っていきたいと思っています。(居森)

平成19年度に入り「守山市体育協会」と「野洲川でんくうの会」の総会を三役の立場として終えた。前者は長らく伝統を持つもので後者は野洲川田園空間博物館整備事業に関わる新しい会の発足であった。この「でんくうの会」の誕生は間違いなくおうみ未来塾・7期での経験を生かした新しいカタチのひとつとして位置付けたい。キーワードは勿論、「地域」「ネットワーク」・「まちづくり」。自己紹介で皆さんのプロフィールを聞くや、なんと素晴らしい経歴の方が沢山いらっしゃる。この二つの会に限らず、地域のたくさんの方々とは筋(モヤイ)ながら発展する事を切に望むものである。(塩谷)

主に表紙デザインを担当させていただきました。未来塾の活動を通じて蒔いた“種”が、それぞれの土地で芽を出し、グングン育っていつてくれたらいいな、との思いを込めました。編集会議では、いつも遅刻して来ては、それまでの合意を覆すようなことばかり発言していたような気がします。編集委員の皆様、ごめんなさい！m(\_ \_)m  
そして、この報告書作成でも、やっぱり事務局の林さんの手を煩わせてしまいました。最後の最後までお世話になった皆様、本当にありがとうございました(涙)!!(藤田)

編集委員として、再度、7期生の活動の経過を見せていただき、個人、各グループの活動の素晴らしさに感心させていただきました。編集委員、事務局(林さん)と夜遅くまで、話させていただいたことも、未来塾の楽しい思い出になり、私の楽しい居場所でした。7期生のみなさま、今後のお付き合いもよろしくお願いします。(古澤)

## ～地域が動く！地域を動かす！～ 風土力 おうみ未来塾第7期活動成果報告書

発行年月 : 2007年6月  
企画・編集 : おうみ未来塾7期生  
発行 : 淡海ネットワークセンター(財団法人淡海文化振興財団)  
〒520-0801 大津市におの浜1-1-20  
TEL 077-524-8440 / FAX 077-524-8442  
E-mail office@ohmi-net.com URL http://www.ohmi-net.com/



*tenmade todoke !!*